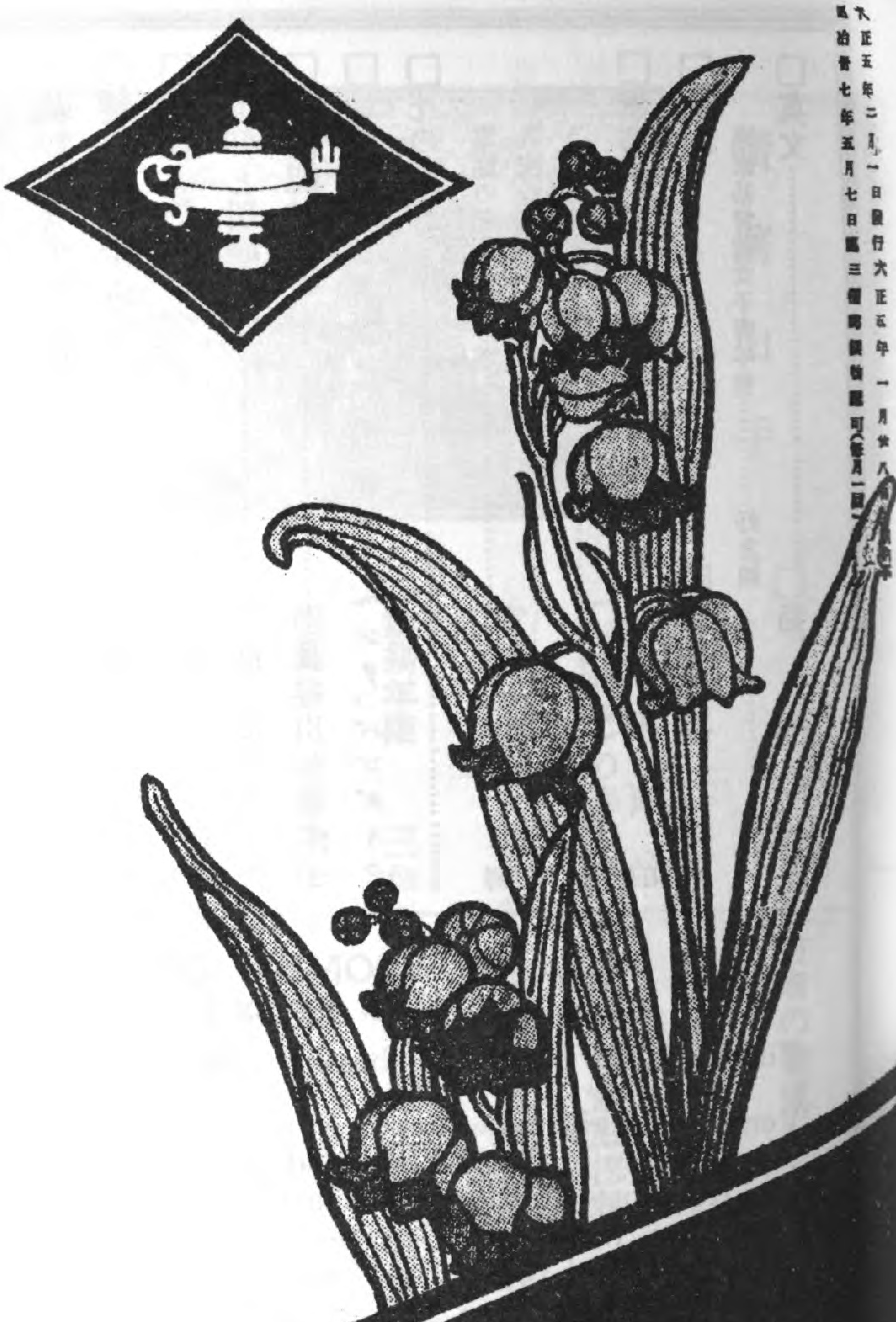
大正五年二月一日發行大正五年一月廿八
明治卅七年五月七日第三種郵便物認可（毎月一回）



女子青年界

第十三巻
第二號

要目

女子青年會第十三巻第二號

目次

YOUNG WOMEN OF JAPAN

(JOSHI SEINEN KAI)

Volume XIII February 1916 Number 2

横濱山手



二百九番

□目　的　婦人傳道者の養成。

□入學資格　滿十八歲以上の婦人にして高等女學校卒業（三ヶ年以上の程度）の學力を有し所屬教會主任者の推薦に係り信仰堅實體格優良にして將來實地傳道に適する者。

□修業年限　三個年、其前に半ヶ年の考査期あり、通計三個年半に當る。

□入學期　學年は每年十月に始まれども入學志願者は其以前四月より試驗生として在學考査を要す。

□給　費　考査を經て本入學を許可せられし上、給費を希望する者には相當の方法あり、委細は規則書を見よ。

□規則書　入用の向は二錢郵劵送らるべし。

共立女子神學校

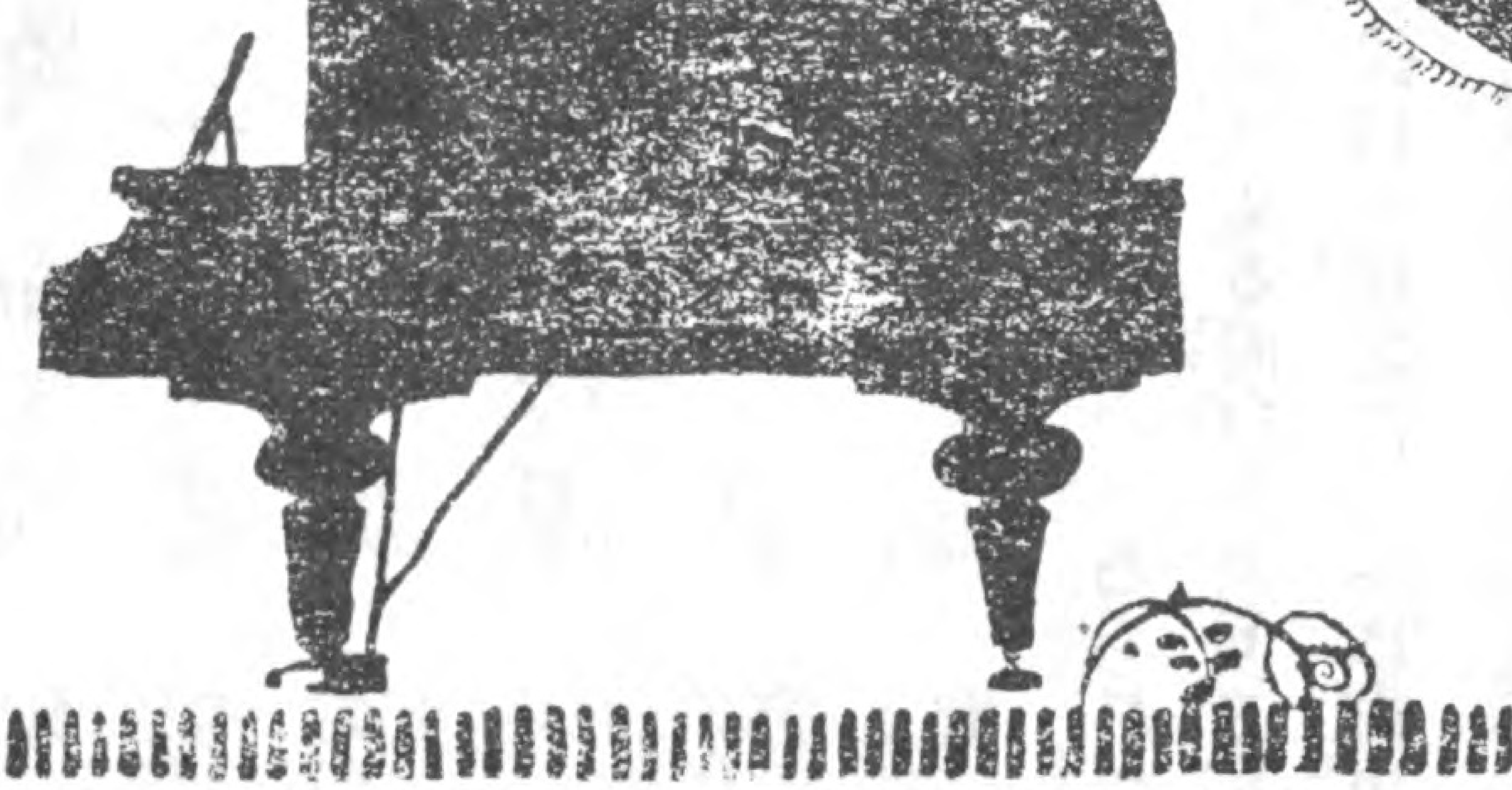
新學年開始四月中旬

横濱 共立女學校生徒募集

山手町二百十二番。高臺眺望絕佳

○尋常科卒業生は無試驗入學許可

○特色。英語、音樂。西洋人五名本邦教師十六名



女子青年界　第十三巻第二號　（大正五年二月一日發行）

信仰の歡喜

爾曹イエスを見ざれども之を愛し今見ずといへども信じて喜ぶ、其の愉快は言ひ難く且榮光あり。　彼得前書一ノ八

蓋は我儕見る所に憑らず信仰に憑りて歩めばなり　哥林多前書五ノ七

我儕神を愛するは彼先づ我儕を愛するによれり。　約翰壹書四ノ一九

我儕のために神の有てる愛を我儕既に知りて信ず、神は即ち愛なり、凡そ愛に居る者は神に居り神亦彼に居る。　約翰壹書四ノ一六

爾曹も眞の道即ち爾曹を救ふ福音を聞きし後キリストを信じ我儕が業を嗣くの質なる約束の聖靈を以て印せらる。　以弗所書一ノ一三

神聖徒をして異邦人の中に顯れし奥義の榮の如何に豐なるを知らしめんとし給へり、此奥義は爾曹の中に傳しキリストなり、彼は爾曹の望む所の榮の望なり。　哥羅西書一ノ二七

若し我は神を愛すと言ひて其の兄弟を憎む者は是れ詭者なり、既に見る所の兄弟を愛せずして未だ見ざる神を如何で愛せん乎。　約翰壹書四ノ二〇

イエス彼に曰ひけるは爾我を見して因りて信ず、見ずして信ずる者は福なり。　約翰傳二〇ノ二九

凡て彼に依頼むものは福なり。　詩篇二ノ一二

會說

萬國學生祈禱日

毎年此の二月發行の本誌上に全世界の凡ての部分に亘つて、男女各學校學生の爲に特に作られた萬國學生祈禱日の趣意書の記載さるゝのは讀者の記憶の事と存じます。即ち例年の通り本號誌上にも次に之を掲載したのであります、この祈禱趣意書は申上げる迄もなく萬國學生基督教青年會より發行されたものであります。

多くの國々には青年男女のために學生基督教青年會が組織されて居りますが、これ等の學生青年會は各自其の國の本部に屬し、又各國の本部は萬國學生基督教青年會同盟の一部となつて連絡して居るのでありまして、此の萬國學生青年會が學生のため祈禱せん事を求むるのは、唯私共の個々の青年會々員の爲に止らず、普く各青年會々員のために祈らん事を求むるのであります。

我日本に於ける我が二十四個の女子青年會の有する會員は合せて二千五百人の少數に過ぎないのであります。さればなほ私共の事に就きて何も知らざるのみならず一層大切なるキリストの事及其等の學生に對するキリストの愛に就きては、全然辨ふる處なき學生が幾萬あるか知れません。實に我々はこの日本に於ける學生の最少部分の團體であります。しか

し萬國學生基督教青年會同盟幹事モット博士が三年前に日本へ來遊の際に申されたことがあります。即ち眞に熱心な基督教徒たる青年があれば、縱し一校に唯一人であつても、終に多數のものを導き得るものである。」といふので御座いました。これは至言であると存じます。

縱しんば私共は數萬人中の最僅少數のものであつても、私共の熱心な眞心よりの祈は必ず神に嘉せらるゝのであります。神の此の地上になさんと望み給ふ事は、私共が其の成就せられん事を願ひ　且地上の男女に神自らを顯はし給はん事を熱心に且信じて願ふまで待たれるのであります。私共は自分達の爲のみ祈るべきでせうか、或は日本全國にある學校の兄弟姉妹達のためにも祈るべきでありませうか。

此戰鬪動亂の時期に際し世界各地の學生が、其學校時代に於て、眞實强固にして智惠ある國民とならんため、且彼等の全生涯を活しめ給ふキリストを度外視しては、彼等が地上の國に對して眞に愛國心に富み、其君主に忠實である事の不可能なる事を學ばんため一層熱心に祈るべき必要があります。私共は唯日本のみのために祈るべきでせうか、或は全世界各地の兄弟姉妹の爲にも祈るべきでありませうか。

恰も二月二十七日はこの萬國學生祈禱日にあたるのでありまして、今次萬國學生青年會同盟本部よりこれを守るやうにとの通知に接しますた。何卒各青年會支部、聖書研究會、其他の團體に於て、或は愛讀者各位に於ても、此の日を特に記憶して如上の精神を以て學生のため祈禱せられん事を切望いたす次第であります。

萬國學生祈禱趣意書

二十年前萬國學生基督教青年會同盟が組織されてより、爾來毎年變る事なく、該同盟は世界萬國の學生等のため一致して祈られん事を青年會々員及一般基督教信者に求むるのである。世界各國及各人種

の基督教信者たる學生を結合して居る萬國學生基督教青年會同盟は、一致協同せる祈りの絶對的必要と其無限の力とを愈々深く信じ、萬國學生祈禱日として定められた來る二月二十七日即ち最終の日曜日を聖別して暫時世俗的生活より離れ、嚴肅に祈られん事を切に求むるものである。

支部、本部、萬國を問はず全基督教學生青年會は至高の人物、エス、キリスト即ち生ける全能の主を中心として組織されたものである。而して皆等しく主の名を表示し、彼に忠順なる事を告白し、又主の主義及精神を學校生活全體の上に持ち來たし、且其學校をして、キリストの傳道の中心となさんために存在して居るものである。これは又キリストをして其の生命と力の根源なる事を認めて居る。

今日の如く、深くキリストが獨一無比にして、最もなくてならぬものであると感ぜられた事はなかつた。今日多數の者は、其苦るしき懷疑、紛亂の中に己れの義務と信仰の正確を見出すに、主の指導を要し、悲哀、孤獨の内に主の聖力を仰ぎ、死の蔭の谷に於て主の確かなる實在を望み、且よりよき日の速に來らん事を悟り得る幻象と希望のあたへられん事を希ふて居るではないか!!。キリストは淸き心、柔和なる精神を持ち信じて彼れに呼つたものには、必ず自らを顯はし給ふた。されば各地における學生教師及學生個々の内に、又學生を通じて主の聖旨の成就せられん事を熱心に望む方々は皆共に來らんとする學生祈禱日を、忠實眞面目に守られ、神の智惠、神の愛、神の力の顯現、即ち目下の大なる缺乏を充たしむるに十分なる顯現のあらん事を祈つて導きたいのである。

委員長　カール、フリース

總幹事　ジヨン、アール、モット

●●●●●●●●

感謝すべき事由

(一)戰亂の暗黑なる背景に對し、キリストに類似せる生活、及奉仕の多く行はれしため、(二)現代の學生間に明朗、犧牲に對し夢想だにせざりし能力の啓發されしため。(三)捕虜收容所、病院等に於て

學生青年會の多くの會員により、美しき實踐的奉仕のなされし爲。(四)前代未聞の大動亂の今日尙青年會同盟に加入せる交戰國の青年會間の關係が依然として維持せられ居るため。(英獨佛等に於て其青年會間の關係が敵國ながら尙斷絕せられ居らざるを云ふ)(五)インドの學生間に於けるショーウード、エデー氏の最近の働きが多大の効果を收めしため、昨年支那に於てエデー氏により開かれし集會の結果として今日も尙多くの新しき學生に其感化を及ぼしをる爲。今日も尙發展しつゝある過去三年間の日本全國協同傳道により多數の學生が救はれたるため、米國に於ける大學、及カレーヂ內におこれる學生間の傳道運動が著しく發展し且大なる靈的効果を奏せし爲。

祈禱の條項

(一)現在戰鬪の內にある國の學生青年會のため又其會員の著しき減少に拘らず、其の重き責任を全うし奉仕に對する新會に遭遇せん爲、其會員及指導者のため。(二)訓練所、戰線、病院、捕虜收容所等にある幾多の學生が深くキリストを味ひ、且僚友間に主の眞の證し人たらん爲。(三)中立國の青年會が肝要なる精神的問題、及眞の缺乏に無頓着になる事なからん爲。尙目下交戰國にある兄弟姉妹の苦難を痛切に感じ、心底よりこれに同情せんため。(四)大動亂によりて大學々生數の減少されしに由り、後日學生の上に置かるべき大いなる重き責任を全うし得んがため、特に今日各學校內に於ける働きが、大いに助長發展せられん爲。(五)眞の調停主唱者の多く起り大なる困難とキリストより與へられたる再興、及復興の事業のため用意せんがため。(六)本年二月十日より二十日まで開かれんとするパナマ修養會の結果、南部ラテン語を用ゆる亞米利加學生のため、一層効果ある働きの起されん爲。

基督教女子青年會の活動と其機關（二）

宗教部、集會委員の事。

(一)目的

基督教女子青年會宗教部集合委員の目的は、唯一二の集會のため講師を見出して、これを依賴するのみにあらず。先づ玆に女子青年會々則中に明記しある、女子青年會の目的を摘錄すべし、即ち左の如し。

「會員相互の間に基督教的性格を涵養し、智識、社交、體育の發達を圖り、一般青年女子の間に、基督教を普及し、且彼等を導き、耶蘇基督を救主として信ぜしむるにあり。」

諸種の集會の組織及各委員は皆此の目的の遂行を助けん爲にせられたるものなり。されば各部委員中にても最も大なる責任とこれを遂ぐる機會を有するものは、この宗教部集會委員たらざるべからず。若

し該部委員にして、一會員に集會の司會者たらん事を依頼したるを以て、既に其義務を果たせりと思ふ時は、學校生徒間に基督教的性格を涵養し、基督を普く知らしむる上に於て、宗教部集會委員により與へられし影響は必ず極少部分に止まらん。

然らば宗教部集會委員は何をなすべきか。該委員は勿論一年若しくは一學期間を通じて女子靑年會の目的を出來得る限り、完全に遂行せしめんため、其働きの計畫を有すべきなり。若し集會をして學生に取り最も有益なるものたらしめんには其集會は學生の日常生活、學校生活者に於ける諸問題及び之に伴ふ困難或は全學生が有する方針、目的、希望等に幾分の關係を有するものたるべし。

(二)委員の資格

該部委員は如何なる資格を有する者たるべきかと云ふに、勿論熱心にクリストに奉仕し、他人に對して眞の證人たらん事を力め、且他の學生に基督を知らしめん事を熱心に希望する者たるべきは言を俟たず。然し、彼等は尙其智識、體育、精神、社交の四方面ともに皆平等に鍛錬、發達せし基督者たらんと努むる者たるべし。又學校生活の全部に深き接觸を有し、及學校生活の缺陷或は其問題等の幾分を了解し得る者たるべし。

(三)委員の職務

委員は每學期の初頭に會合して、一學期間に於ける該部の働きの計畫をなすべし。

集會其物の計畫を立つに先立ち、委員は先づ其學校の缺陷を研究するを要す。即ち例へば學生等は基督教に反對せるか。反對せるならば其の理由は如何。如何なる種類の宗教的集會が既に學校內に開かれつゝあるか。尙多くの集會を要するか。之を要するとせば如何なる種類の物なるべきか。學校及學生の生活に於ける如何なる點を變更又は改良すべきか。今學期に於ては如何なる種類の集會が最も有用なるか或は特種の聖書研究、若しくは基督教と日常生活とが如何に密接なる關係を有するかを說明し、之を

明白ならしむるに基督の教訓及其實例をもつて、特に日常生活に關する問題の討議を要するか等に付き深く考究すべし。

かゝる問題が熟考されたる後は、委員は容易に集會に關し、最も善き計畫を立つる事を得べし。一年中には、諸種の委員其責任を負へる集會、及クリスマス、復活祭、夏期修養會等につきての諸集會、祈禱週、祈禱日等の集會の外に尚多くの催さるべき集會あり。即ち禮拜、實際日常生活に關する事柄、社會事業、會員一般教育ある婦人の職業、傳道、基督教信仰の基礎（一人の會員この種の集會を司どる事能はずば牧師若しくは年長の信者を招聘すべし）等に關する集會なり。

一學期間に開かるべき集會は全部同時に計畫し置き其司會者の如きは早くよりこれを依賴し置くを宜しとす。然る時は依賴されしものは其準備の爲充分の時日を有すべし。度々多く外來の講師を依賴するは宜しからず。基督敎信仰の基礎に關する講話などにより新鮮なる靈感を與へ得る特別なる講師、或は救世軍、盲啞學校、幼兒預所、工場等に關する働き等の基督教的諸事業に精通せる講師を、一學期一二回招聘するをよしとす。これ等は興味ある且有功なる感化を與ふるものなり。然し多大の利益は普通に會員司會の下に祈禱を以て、會員各自これにたづさはり得る集會より來るものとす。

集會の計畫されたる時と雖も、尚委員の職務は終了したるにあらず。計畫は唯働きの手始めなり。該部の目的の遂行され、出席せる學生等がよりよく神を愛し、これに仕ふる事を學びしか否かは其集會の成否に由るものなり。集會に關する事と雖も全然これを司會者に一任し終るべからず。集會を一般學校內の生徒に告知する場合、單に黑板などに記すのみならず、成可く興味ありて學生の注意を惹くに足る廣告法を用ゆべし、例へば廣き厚紙等に奇拔なる興味深き繪を畫かき、これに集會の主題を記して掲示する等なり。又學生個々に集會の招待狀を送るも誘

引の一法なり。

集會に於ける音樂は委員之れを司どるべし。且讃美歌は成る可く、其集會の主題に適合せるものを撰び置くを要す。又集會の種類により、時に應じて讃美歌以外に尙特別なる音樂、例へば奏樂等を入るゝはよし。會員若しくは委員の一人をして集會の開かるゝに先立ち、會場の空氣の流通等に注意せしめ置くべし。尙一人を定めて椅子、司會者の卓子等の整頓を司どらしむべし。

集會の以前に委員と其集會の司會者集りて共に祈禱を捧ぐる事肝要なり。

(四)開會度數

一ヶ月一回の集會のみにては、如何に熱心に考究し、討議するとも、キリスト敎的性格を充分に涵養する事不可能なり。實驗に照せば一週一回の會合を有つを最も有効とす。然し此は其の働きの最初に於て研究すべき問題なり。毎週一回の集會には往々にして、全會員の出席に好都合なる時を見出すこと困難なれ共、若し出來得べくば、學校全生徒を通じて最も差支へなき時を、一週一時間撰定し置くを最も宜しとす。然れ共若し一回を撰定する事不可能なる時は二時間(即ち二回)を撰定し置くもよし。

計畫、準備、集會等何れに於いても「祈りて倦ざる」樣心掛くべきなり。然らずば其働きは無益に終るべし。

力に必ず之を濫用せんとする誘惑伴ふ、
誘惑は何時も我等の力の周圍に渦卷く、
人目を惹く社交家は歡樂放縱に迷さろ、
金儲の上手なる者は蓄財の爲に滅亡す、
大戰爭は必ず大國と大國の衝突に起る、
誘惑は力の增加によりて減ずる事なし、

神の住み給ふ處

植村正久

至高く至上なる永遠にすめるもの、聖者と名くるもの如此いひたまふ、我はたかき所、きよき所にすみ、亦心碎けて謙だる者と共にすみ謙だる者の靈をいしか、碎けたる者の心を生す。

（イザヤ書五十七章十五節）

右の聖句の內に二つの事柄が敎られて居る、一つは神の氣高く、大なる淸らかなる御姿なる事、一つは其廣大無邊にして最も高く淸き神は、吾々のやうな罪ある者、此處には碎けたる心の者、謙れる心を持つて居る者と共に御住みになる。この二つの事である。吾々が祈禱する時『天にましますす神』と云ふが、天に在ます神は何も吾々の頭の上に高く天上に住み給ふと考へては間違である、神は天上にばかりでなく何處にも居り給ふ、しかし神の廣大無邊なる事は吾々の想像も及ばない、よりつく事も出來ない、其遠永い事、其大いなる事、其潔き事、譬へやうがないのである。吾々、兎角神の事に付いて餘り馴れ／＼しい、そんざいな考を持ち易い、神を小さく思ふ恐れがある。吾々の祈禱の中に神に御心配をかける、などと云ふ事があるが、これは何か淺薄なものに聞える。神の廣大無邊な事、氣高き事を忘却して、父か母にでも物を云ふ樣になりはせぬかと氣遣はれる。神をぞんざいに取り扱ふ、神の御名を猥に稱へる、神は自分の番人か何かの樣に考へる、神を信ずる事は保險會社に加入したか、警察署にでも飛び込んだやうな心持ちになつて居る。神を信ずるから無事だと云ふ。そんな信仰では駄目である。淺草の觀世音でも拜んで居ると變りがない。もつとわ

〳〵の信仰は深く精神的のものでなければならない。又神を有るがまゝに、其氣高き御姿に應しき心をもつて居りたい。イエスがサマリヤの女と悟り給ふた時にも、汝等は汝等の拜すべき神を知ない、ユダヤ人の方が優つて居る。然しユダヤ人とても十分に神の御心を知る事は出來ないから、さして違いがない。依つて深き考へに汝を包んでやりたい。神は靈なれば靈と眞をもつて拜がまねばならない。山の上でばかりでなく、この地の上にて拜むも同じであると種々深い御話があつた。サマリヤ人も無神論者ではない、矢張り神の事を考へて居たが、エダヤ人の方が優れて居る。然し未だそれでも足りない、段々あるとイエスは教へて居られる。氣高き神と餘り懸け離れぬ心持ちを持つて居る、これが大切である。不平を鳴らしたり、我儘を云つたりする事が往々あるが、これは神の潔かな、氣高き有樣を忘れるからである、我々は實に小さい狹い、思慮淺き者、罪深き者、汚れたる者と云ふ考が、我々の心の中にあるならば不平などはない筈である、つまり不平などを有するのはこれを忘れて居るからである。吾々人間の力では到底殘る處なく完全に考へる事は出來ない。然し根本的の中心思想に於ては餘り見當違ひをして居たくない、此聖句の内にあるやうに、神の斯く大いなる永久不變、實に潔らかな御姿を確と思ひ浮べる樣になる時、其心に大なる感化と能力が與へられて新らしき心持になる。例へば座禪などをする人が眞に神或は佛の事を認めたとは云はないが、併し、神の御姿で云へば、其衣裾あたりをちらと見たと云ふ樣な感じには隨分なれる。又これを見れば悟りを開いたと云つて、手の舞ひ足の踏む所を知らず、歡喜雀躍、平和になると書いてあるが、さうであらう。されば況して如何にも永久不變で氣高ひ、神の如く御姿を見ると心持が變るのは當然の事である。又況して此細かき事、氣高き事を考へると尙更である。キリスト教ではこれが其の力である。

人が神を如何に思ふべきか、と云ふことのみを考

へ、見當違ひをしてはいけない、間違のない様に正しく考へねばならないと云ふのは人情である。併し又人が人の方で神を何んと思ふ。誤解のないやうにすると云ふ事も大切であるが、神が吾々を何と御思召すか、これを考へ知る事が更に大切である。神が吾々を愛し給ふか、同情を有し給ふか、自分はこれで偉いと思つて居るが神の前には何であるか。神は何と見給ふか、人を吾々はよく裁くが、神は吾々を如何に議し給ふかといふやうなことを考へる事が大切である。如何に神が愛し給ふても、心を用ひ給ふても、無頓着で氣付かない、恰かも小判の前の猫の様では仕方がない。吾々は常に神の慈愛に包まれて居るが、氣付づかないで居る。然し神が如何に思召して居らるゝかを考へて、これに感謝し、涙を流すばかりにならねばならぬ。信仰は此處にある若し神が吾々に對して無頓着で氣がつき給はぬならば、大變である。神は何んでもない、人格的のものでないと云へばこれ又大變である。又神は人格的のもので我々の事を考へ、これを惠み給ふ事實があつても、氣付かなければ無益である。親があつても其の心中を知らず解し得ないならば一家の内にあつても、丁度汽車の乗合客の様に煙草を吸合てすれ〱に相接して居るが、知らない他人であると同様である、斯くの如き家庭が多い。

神は吾々を愛し、考へて居給ふ事を感激して、心持が變化する迄にならねばならない。惡魔も神のあることを知つて居るが、唯恐れ慄いて居るばかりである、それでは好くない。雨は何處にも同じく降つて、日は同じく照す。太陽は善人をも惡人をも照す然し其の心の持ち方、受け方が違ふ、同じく神は凡ての者を惠み、同情し、教育を與へ、罪の中から救はんと努力して居られるが、それが分らずに居る。恰かも同じ太陽に照されて居ても正しき人の受け方と、正しからざる者の受け方とが違ふやうに違ふ、これ信仰の有無による。神の恩寵を思ひ、感謝して世を渡る、これ信仰の道である。兎に角、神の事を

考へて、己れを潔め、淺薄な小さい、低い考へ方を仕たくないものである、『天に在ます』と云ふ言葉を粗略に無暗に使はないやうにしたい。『天に在ます』と云ふ言葉を使ふ時は吾々の心が變らねばならぬ。第二、『至高く至上なる永遠にすめるもの、聖者と名づくる者』高き處にある永遠無窮の聖者、聖き者とは神なるが故である、この聖き高き所に住み給ふ者が心砕けて謙れるものと共に住み給ふ。キリスト教の信仰は、限りなき神と限りある吾々人間とが交はる。天と地が一所になる、實に尊くして、氣高く、其の前には何も言葉が出です、吾々は其の前に出づれば、日に照らさるゝ霜の如き心地がする。これが當然である、神、其神が吾々愚かなる者、罪ある者とお住ひになる。元來、天にある神が吾々を惠み導き教育して下さる。皆様が聖書を御覽なされば、閉め切つてある戶を明けよ〳〵と呼ばはる神の聲をお聞きになるであらう。絶へず吾等をはぐくみ導き給ふキリストが外に立ちて叩き給ふは皆さんの御存じの通りである。高きに住める聖き方が、吾々に對してさうなさるとは實に不思議である。宗教と云ふものは元來不思議である。神と吾々が親しく偕になる祈禱も不思議であらう、人間同志ならば見える事も悟る事も出來ない人がある、謁見でも仰せ付けられると大に喜んで名譽とし、何か一寸頂戴物でもすれば、床の間に飾つて、來る人毎に見せる。又子孫に遺す。然るに高きに居ます聖き神の事は氣が付かず、其恩寵に感じない。餘り馴れつこになつて其高き事を忘れて居る。

然らば此尊い聖き神とは如何にすれば親しくなることが出來るか。これが問題である。そこで此處に斯の如く書いてある。『心砕けたるもの』砕けたる心とは、度々聖書に出て居るが、日本ではこの砕けたる心とは、修業を積んだ、苦勞を甞め、よく鍛練された、勝れたものと云ふ樣に思はれるが、其れは見當違いな解釋の仕方である。この意味は自分の足らない事、汚がれて居る事を思ふて消え入るばかりに

恐れ慄き謙りたるものと云ふ事である。吾々は完全な、正しき、氣高い心で神に事へる、親しく交ると云ふ事は天使ならねば、出來ない事である。依つて、己れの小さく、罪ある事を思ひ、嘆き恐れ入つて、神に仕へ、神は聖き者を好み給ふ故、其聖旨に適ふように、この身も如此聖くありたいと努める。イエスの人を救ひ給ふ其聖旨に同情し、共に謙るものであつて始めて神と親しくなる事が出來る。この心がなければ、嬰兒が親のそばにのみ居るが、何も其親の心中を知らず、唯 物をねだつたり擦つたり擦られたりして居るやうなものである。こんな淺薄なものではよくない、其心中を知らず、心と心とが融合しないと云ふのはキリスト敎でない。頑是ない子供が、其母親に甘垂て居るのは可愛らしいかもしれないが、さう云ふのはキリスト敎ではない。警察署に飛び込んだか、保險會社に加入したやうに、もう燒けても好いと思つて安心して居る、又は或る學者のやうに、一步進んで智識的の愛を持つて神を愛する、これにも取りえがないではないが、眞にキリスト敎を信じたとは云へない。神は聖きもので吾々を惠み給ふ事を思ひ、己れの罪を顧みて、碎けたる心をもつて、此罪人を憐み給へと項低れる、此處に於て神は近づき偕に休み給ふ、此處に親しみがあるさもなくばあかの他人で言葉も知らぬ者が、波止場で合つた樣なものである。そんな宗敎でもなきに優るかも知れないが十分ではない、神が何を思ひ給ふか、恰かも親と子が好く了解し合つて居るやうに了解し、又子を持つて知る親の恩と云ふ位の程度にまで進んでこれを經驗する、即ち詩篇十一篇四節、百三十八篇六節三十四篇八節、又イザヤ書四十二篇三節に『傷める蘆を折ることなく』とある如く神は罪ある者を憐れみ、其悔い改むる時、最も親しくなる。皆樣が永年神を信じ、祈をなさるが、今一度繰返して同じ譬を用ゆれば、保險會社に加入し、警察署に飛び込んだやうな心持で、眞に天の父と云ふ事を知らず、ポーロが云つたやうに、罪を悔いず眞に碎け

たる心がない間に眞に神と親しくなる事は出來ない。神と縁遠く思ふのはこれである。この心がないからである。各々の經驗に、碎けたる心、悔い改めた態度が溢れて居るならば、神と吾々とは親しくなり、神が入り來て長く座を占めて住み給ふ事が出來る。今日吾々に眞に謙れる、碎けたる心がないから、何か神より距つた、遠いやうな心持がするのである。如何にすれば神が我々の內に座を占めて永住し給ふか。吾々の信仰生活に於て何時までも此心持ちを忘れず、神と共に同居する事が出來るか、そうするには每日今云つた樣に、碎けたる心持ちを持續する事が大切である。吾々の信仰はこれを以て始まり、これを持て續けられ、これを以て終るのでなければならぬ。

イエスの示し給ふた神、恵み深き神、救を給ふ神が共に住み給ふ事を願ひ、神の聖旨に無頓着にならぬやうに勉め、謙りたる心になる、されば潔らかな廣大無邊の神が吾々の心の中に住み給ふのである。如何にしても吾等は正しき聖き完全な者では神の御前に出る事は出來ないものであるから、碎けたる心、謙りたる心持ちを以て出るのである。然る時神は近づき給ふて、最も親しい握手をする事が不思議にも出來るのである。（文責在記者）

祈禱と活動

ミス、ウエスト

祈禱と活動に就いて、お話しすれば易しさうですが難しい、今日の時代は活動の時代でありますので

祈禱の時間が少なくなりました。或極端な人は祈禱が大切であるからと云つて、活動は御免蒙りますと云ふ人がありますが、此活動と祈禱とは共に並行すべきものであります。此婦人傳道會社は創立後三年になりますが、この會社に大切な二つの事があります即ち祈禱と活動であります。私は今日この會に參る事を御遠慮しやうと思ひましたが、私の母の事を思ひ。又私が國に居た小供の時代の事を思ひ、母が外國傳道の事などに盡した事を思つて、母の紀念として御話しやうと思つて參つたのであります。

私が第一に考へた事は、諸姉妹の御手にある報告であります。今日一寸面白いから行つて見ると云ふのでは何の價値もありません、何のためにこの會社は働いて居るか、この會社は佐渡の傳道をして居りますが、佐渡の詳しい地理を御存じの方がこの內に幾人いらつしやいませう、又何處に何日誰が行つて傳道をなさるか、一つは三井病院の働きでありますが、南牧師が二月に二度三井病院に行つて、雨天の時でも晴天の時でも朝七時に行つて禮拜を司られます、がこの事を御存じのお方がありませうか、又外村先生が市內其他各地方に於てのお働きを知つて居られる方が幾人あるでせう、乾度十人にも足りないだらうと思ひます。依つてよくこの報告を御覽頂きたいのであります。外村先生は方々の婦人會や其他へ行かれ、南牧師は午前七時に行かれますが兎に角皆活動であります、この先生方の御活動に御手傳ひをしやうと思つても、家庭を持つて居られる方には出來ない事であります、然し必ずしも家を外にして出て働らかないでも、これをお助けする方法はあります。今七時が打つた、あゝ今頃は南牧師が三井病院に行かれる時であると、これを記憶して暫くでも其集會のために祈るならば、其によつていかに三井病院の集りが祝福され、有功なものとなりますか知られないであります。

"Individual Works for Individuals" と云ふ有名な本がありますが、個人の爲の事業があるならば、個

人のための祈禱もある筈であります、これを今日學び度いと思ひます。事業に成効するの秘訣は祈禱であります、事業に成功せんには祈禱がなくては不可能です、自分のために祈るのみならず、人のために細かに細かに考へて祈る事は大切な事であります。今日の活動の時代に祈禱がなければ何事にも成功する事は出來ないのであります、又公の祈りのみでなく、密かなる祈禱のために、公の事業が如何に助けらるゝか私共の想像も及ばない處であります。

私は此の祈禱と活動と云ふ事について、特に家庭を持つて居らるゝ御婦人方を思ひます。或る教會では一週一時間傳道のために捧げる決心の會員を募りましたが、決心して其れに應じた人が多くあつたとの事であります。一番暇な人がよく働く事が出來るとは申されません、却て反對に多忙で寸暇もないやうな人が一番好く働いて居ります。これは實に不思議な事でありますが、其の人は其秘訣は祈禱なる事を學び又祈りの必要を感じた人であります。即ち例へ身は實際其場所に出なくとも祈りをもつて、これを記憶しこれを助ける事が出來ます、例へば家庭を持つ婦人で、今着物を着更へて、傳道集會に出やうとして居る時、相憎來客があるかも知れません、斯る場合に信者の人で懇意な間柄であるならば、共に傳道集會に同行するもよし、又未信者であれば、外出を止めて内に招じ、其時を是非とも外の傳道のためでなく、内の傳道のために使ふのであります。即ち自分の火鉢の傍で、自分の座敷で用談の後其の人に神の道を傳へる事が出來て、機會を失ふ事はありません。ある人が『戸を叩く人は神より遣された人であると思へ』と云つた事があります。又今日婦人會があると云ふ時、昨夜より小供が風邪に罹り熱が高いと云ふやうな場合には、外に出でず、内に居つて子供の健康のために祈る筈ではありますまいか。また其集會を覺えてそれがために祈る事が出來ます。ウオーツ、ロビンソンと云ふ人は『人に逢ひ度いと思ふ時には半時間其人のために祈れ』と云つて居り

ます。又『面會を約束して待ち受けて居る時先方より不意の用事、差支へのため來る事が出來ないと云ふやうな知らせを受けた場合、あゝ滿らないと失望したり怒つたりしますが、其代りに其の人の事を思ふて其間に祈れ』と。私共婦人は公の傳道のために盡すばかりでなく、密かに祈る事が大切でありますかゝる心掛の婦人の多い教會は强いのでありまして決して普通の教會員のみでは强くなる事は出來ません。私が亞米利加に居る時分一教會の婦人のみが共に祈らうと云ふ事になり、始めは小會から、中會、それから總會のため、後には外國傳道のためにも祈るやうになり、それが多大の功果を收めた事があります。

私は最後に特に母なる姉妹方に申上げ度いと思ひますが、今日この日本の國で大切なる事は牧師であります、自分の息子を立派な者にして成功させたいとは祈りますが、この息子を犧牲の生涯を送る牧師におそうと云ふ事が出來ますが？　私は深くこの事を考へます、多くの青年に接して尙一層其敎を强うします。立派な牧師が作られるのは其の母の導き、其熱心な、密かなる祈りによるのであります、何處を見ても牧師の生涯は犧牲であります。然し母親の密なる祈りと堅き決心によりて立派な牧師を多く出して頂き度いと思ひます。祈りがあれば必ず其處に機會があります、私の目を開き口を開き、如何にかして人をキリストに導き度いと祈るならば、不思議に不思議に、好機會が與へられます。或る人が前大統領ルーズベルトは常に好機會をもつて居た人だと云つたのを、聞いて居た一人は『ルーズベルトは好機會の與へられるのを待つて居たのではなく、進んで得たのである』と云つたさうでありますが、吾々婦人もさうであります、祈りがあるならば其處に機會があります。又婦人の好機會は靜かなる祈、密なる祈禱の內にあります。私共廣い廣い精神をもつて、密かる祈を力め、それによつて機會にかなつた活動をなし得るやう祈り度いと思ひます。

（婦人傳道會社新潟會講話の梗概。）

信仰と祈禱

高橋久野子

歐洲の天地は、戰亂の巷と化して居る今日、我國にては太平の內に、年を迎へて居ります。且神を知り神にたよれる私共は、なほ感謝に堪ないのであります。併しわれ〳〵は、唯太平の快夢をむさぼるにあらず、矢張り戰ひをせねばなりません、その戰は靈の戰であります。この靈の戰に於て最も大切なるものは、信仰と、祈であります。或る方の言葉に『信仰は祈りの活動である』と申されて居りますが、然し反對に又信仰を活動させるのには、祈禱でなければなりません。祈禱は信仰の呼吸であります。私共が自分の信仰の弱きを嘆き、如何にしたら好いだらう、如何なる話しを聞いたらよからうか、如何なる書物を讀んだらよからうかといろ〳〵考へますが祈ると云ふ事に氣が付きません。若し書物を讀まなければ、信仰が強くならないものであるならば、健康が許さなかつたり、多忙であつたりする時は、善い信仰は得られないでありませう。併し、エスによりて祈禱をする事が敎へられてあるのは、感謝すべきであります。彼の有名なる信仰の婦人、セント、テレサの詞に、『祈つて居る時、祈りの氣分が進まぬのは、私の心が、天の父の方に向つてゐないで、世の中の方に行つて居るからである』と申されましたが、振はない信仰は、祈禱が足りないからであります。私共はこの新年に於て、人のためにも祈らなければなりません。若し私共が心から人のために祈るならば、祈つた其人のためのみならず、祈る其者にも祝福は來まして、其信仰はます〳〵強くなります『祈りは人を動かし、人を導く神の御手である。』と一

人の友人が云つた事がありますが、若し私共が神の御手なる祈を致さなかつたならば、到底人を導く事は出來ません。神の御前に居る事を思ふ時、或る人を導き度い。この人を救ひ度いと思ふ時、祈つて先づ己れの信仰を盛んにして後に、他人に及ぼさねばならないと思ひます。

信仰の要件につきては、多くの事がありますが、自分の心づきました中で、其重なるものゝ第一は愛すると言ふ事であります。神を愛し、エスキリストを愛し、又人の魂を愛する。愛は私共の信仰を増す一要件であります。自分一人で祈らずにたゞ默想した處で、信仰は進みません。エスを仰ぎ、心あへる友と共に靜かに語る、其時眞實の信仰が増すのであります。神の御前に出で、神と共に語る事は即ち祈りてありますから愛をます爲に祈禱は勿論大切であります。

第二は從順であります、私は特に我が强く、兎もすれば、人樣に私は斯く思ひます、彼樣思ひますと言ひはりますが、後になつて、はじめて自分の我がつよく不從順だつたのに氣がつき、悔いるのであります。ピリピ書二章にある如く、『己れを卑くし、死に至るまで順ひ、十字架の死をさへ受くるに至れり』と申されました、主エスを思ふて、はじめて從順の心起り、主を敬ひ、われらの信仰が増すのであります。主の御用ならば、何にても、これに從はんと言ふ强い決心が出でます。

第三に更に大切なるは人に仕へると言ふ事であります。人を使ふためにあらず、人に仕へんためなりと、エスは申されて居ります。我々はエスのため、人のために仕へる事が大事であります、これが信仰を増す一要件であります。神と人とに仕へる方法は種々ありますが、祈りによりて神に仕へ、神の恵をうけ人に仕へ申す事が大切であります。私共は眞實に何をするために、此の世に生れて來たのでありませうかと思ふ時に、神と人とに仕へる爲に生れて來た事を敎へられて、實に感謝してをります。而かも

又祈る事を教へられて居ります、祈る事によりて神に仕へて、はじめて意味深い生活を送る事が出來るのであります。

神に仕へると云ふ事について面白い話があります米國のユニヲン神學校の校長ホール博士の處に、ある日、美しい服裝をした一人の婦人が、實によく發育した、可愛らしい一人の赤子を、乳母車にのせてつれて參りました。いろ〳〵博士と四方山の話の末「如何して私はこう信仰が進まないのでせう？　いつも同じ處にばかりあつて、少しも信仰は進歩しません。先生どうすれば、私の信仰は進むで御座いませうか」と問ひました。博士はこれには何とも御答にならずに、他の話をつゞけて居られましたが、ふと此婦人に向ひ、「あなたの御子様はまあよく發育して御可愛らしいのですね」と其子を賞められました。婦人は我が子が賞められたので、嬉しく、調子にのつて「ハイ、この子の養育には、隨分骨を折つて居ります、乳も一日に何回と定めて、規則正しく與へ睡眠も一定して御座いますし、それに運動も適宜にさせて居ります、時には今日の樣に運動のために連れて出でます。」といろ〳〵得意になつて語りましたすると、これを聞いて居た博士は「あゝそうですかしかし、そんなに規則正しく何回ときめて乳をやらずに、一度に澤山やつたら如何ですか？」「あゝ、それは無謀で御座います、一回位では十分に營養が足りません、そうして病氣になつて仕舞ひますよ。」博士は又「運動や、睡眠も一定しないでよい加減にしたら好いでせう」と云はれました、「いゝえそう致しますれば、衰弱して大變で御座います」と婦人は眞面目に答へました。これをきいて居た博士は「そうですか、それでは、あなたは御子樣の養育には、大變骨を折つて規則正しくして御出でゝすが、御自分の信仰の養育には、規則正しくして御居でになりますか？」と尋ねられた。「否え、御恥かしいのですが私は自分の氣がむいた時は、聖書でも、何章も何章も讀み祈りでも一時間もして居ります、氣の向かな

い時は何日も致しませんと』それだから信仰が進ないのです、丁度一度に澤山乳を與へて、それを唯一度より與へなかつたら、あなたの御子様でも、さう立派に發育なさらず、衰弱して御仕舞ひなさるでせう信仰に於てもそれと同じく、聖書を讀む事や、祈を規則正しくなさらないので、信仰の衰弱症にかゝつて居られるのであります』と語られた事があります。

實に氣のむいた時のみ一度に多量に聖書をよんだり祈つたりした處で、それきり止めますと、信仰の病氣になるばかりであります。凡ての事を規則正しくして行く時、はじめて健康になるのであります。丁度食物でも食慾のない時は體の加減の惡い時で、何處かに病氣のある時であります。さうしてかゝる時、なほ更に滋養分が必要で、これを受けなければなりません。信仰生活に於きましても、私共が祈り度くない時は、即ち祈禱の必要な時で、魂の何處かに缺陷のある時であります。或る人は、祈り度くない時には、祈らないでもいゝと云ふ人もありますが、それはよろしくありません、かの宗教改革者マーテイン、ルーテルでさへ祈りの出來ぬ時がありましたが、其時には種々工夫して、聖書をよんだり、讃美歌を歌つたり、主の祈りをしたりして、後自ら祈つたと云つて居ります。ルーテルの如き偉人さへもさうでありますから、ましてわれ／＼平凡な人間はより多く祈り、讃美歌を歌ひ、聖書を讀まなければなりません。信仰の呼吸である祈をつとめ、生ける完全の人格を持ち給ふ主エスに接し、力を受けなければなりません。徒らに信仰が振はないと、嘆く人は、かの婦人の御はなしを考ふるを要します。唯徒らに考へ、嘆いてのみ居ても、信仰は増すものではありません。祈らなければなりません。詩篇の八十四篇にあるやうに『吾靈魂はたえいるばかり、エホバの大庭をしたい』眞心より『生ける神に向ひて呼ぶ』べきであります。私共が神に求むるならば、『涙の谷を過ぐるとき、多くの泉ある處となし』給はん。

私共が常に榮光の内にある主の御顔を見上げて祈るならば益々強くなり、信仰から信仰に進み、力より力が與へらるゝのであります。共に祈る事によりて信仰をすゝめ、靈魂の戰に參加しなければならないと思ひます。

臺灣紀行

長谷川　喜多子

私は別に傳道の爲とか、大きな集會を開かうとか云ふ、大きな野心があつたわけではなく、唯、彼地臺灣にある聖公會婦人會を訪問し、相共に神の前に膝まづいて、祈つたと云ふ紀念を持ち度いと云ふ目的を以て、ミス、ボーフラトーと御一緒に昨年十一月二十五日の夜、東京驛を發足し、翌二十六日神戸着、直ぐに、波路遙かに臺灣向つて解纜致しました。船中至極無事で、三十日早朝臺灣島の咽喉基隆港に上陸しました。此處は丁度內地で云へば、横濱のやうな處で、それから東京とも云ふべき臺北に着しました。該市は御承知の通り、總督府の所在地でありますが、其市街の繁華な事、其道路の淸潔廣濶な事、到底銀座通りも、三舍を避けるほどでありますす、且非常に便利に思ひました事は、餘り熱氣甚しき故でもありませうが、道路の兩側に並んで居る家々の軒が、皆同じく長く突き出て、全く人道を覆ふて居る事でありました、それがため、傘をさす手數がはぶかれるのであります。又公衆の建築物などは實に莊麗を極めたものであります。こゝにはカナダのプレシビテリアンのミッショシが來て活動して居られます、其他內地からも多く牧師方が行つて働いて居られますので、可成り基督敎は盛んに見受けられました。こゝで歡迎會などをお催し下さつた爲一夜を過し、翌朝早く臺南に出發いたしました、それより先づ南下して、一直線に官設線の終點から、なほ精糖會社の私設線によつて、番薯寮に參りました、こゝは最早餘程南部に位し、私共が參りました

最南の場所であります。それより北に向ひ、嘉義、五間厝、臺中、と順次巡回して、十二月九日に臺北に歸りました。蕃薯寮では精糖會社員の一人が信者であつた爲、其お宅で社員の夫人令孃方の集りを致しました。嘉義では、女子學院の卒業生や日本基督教會牧師細川氏の御令孃などに御目にかゝり懷かしく感じました。五間厝には彼の有名な日本精糖會社がありますが、其社宅にある婦人方の爲に婦人會が催されました。又、此處で東京女子青年會副會長今西糸子氏の令妹に偶然お會ひ致し青年會の御話など種々致しました。臺中では郵便局長松尾氏が日本基督教會の信者である所から、其社宅で局員その他のため集會を開きました。臺北には十三日まで滯在致し日曜日には日曜學校でお話をしたり、其他聖公會のお集りなどに出席して、多忙の中に時を過しました。少し方々を見物致し度いものと思ひましたが、時に追ひ立てられてそれも出來ず、遂に十三日午後基隆出發、二十日東京に歸着いたしました。

私がかうして遊歴しました内で、最も興味深く、感じましたのは、臺南であります。この市は臺灣の古き都であつて、臺灣人五萬に對する日本人一萬と云ふほどでありますから、未だ古い習慣風俗などが多く殘つてをります。唯不便に感じたのは、車夫の言葉の通じない事でありました、中には日本人の車夫も居りましたが、多數は臺灣人でありました。又此處は小供さへ熟知して居る彼の北白川宮殿下の薨去ましました處で、其古蹟も殘つて居ります。又、殿下を御祭り申した、臺灣神社と云ふのもあります薨去あそばされた古蹟などは、實に御質素で見るも傷ましく自ら落涙を禁じ得ませんでした。其他見物に價する多くの古蹟がありましたが、時間不足のため殘念ながら其機會を逸しました。この市には四十年前から英國のプレシビテリアン、ミッションが働きを續けて居りまして、土人間に好き感化を與へて居ります。それがため、土人は日本人よりも、却つて英國人を尊敬して居ると云ふ有樣であります。私

共は此處で長老派の一宣敎師の御宅に滯在し手厚き待遇を受け、親しく土人と接近して有力なる働きをして居られるのを拜見しました。このミッションが經營して居る學校、病院、或は簡易な傳道師養成所もありました。又非常によくローマ字が普及せられ老婆の土人達までローマ字の讃美歌を歌つて居りました。或日曜日伴はれて、私共は土人のみの集會を催す或る敎會に參りましたが、唯オルガン彈奏者のみが英國婦人で、集會者は皆土人でありました、說敎も土人がして居りました。讃美歌は今申した樣に漢字のもありましたが、多くはローマ字の讃美歌を歌つて居りました。この敎會は非常に大きな建物でありましたが、尙會衆堂に充つの有樣で、其盛大な事におどろきました。又此處で英國宣敎師の手に經營されて居る女學校を參觀し、私も一場の講演を試みましたが、私が英語で致した講演を英國人の先生が通譯されたのであります。通譯付きの話を致したのは、生れてはじめてにて、誠に可笑しく感じました。以前河井道子姉も御來南の節御講演をなされし由記憶して居るのをきゝました。同校生徒は四十人内外で、皆土人の女子であります。重に寄宿舍生で、通學生は極少數の由、程度は非常に低いのでありますが、習字、刺繡なども敎へて居ります。重に英語のみを話してをりますが、中に日本語に巧みな生徒も居つて、愉快に思ひました。此處で暫く英國人の先生方と、談笑いたしましたが、其英國人の言葉の内に、非常に恥かしく感じた事がありました。日本政府が種々のよき施政を行ひ、物質の文明を輸入した事は至極結構であるが、一つ政府が誤つた事がある。それは同時に公娼制度を許可した事であるこれがため日本政府が入るまでは、口にするさへ恥ぢて居た淫猥なる事を公然と、臆面もなく口外すると云ふ有樣になり、土人靑年の風紀を亂す事甚しい何故この公娼制度を政府は廢止しないのだらうと云ふた事であります。私は日本人として、この言葉を聞き、實に穴あらば入り度い心地が致しました。

臺南でこの話をきいて基隆に參りました時、十人餘の賤業婦が一人の日本高等官を見送らんとて、一隻のランチを買ひ占め、これに搭乘して皆淫猥下劣な俗歌を聲高らかに謠ひ、甲板に來ては他の人と一所に喫茶し、或はハンカチーフを振り、或は紅の襦袢の袖を振るなど、公然、傍若無人の振舞をなして顧る處なきなど、內地に見られぬ光景で、愈々慚愧に堪えませんでした。此地では斯る賤業婦が、却つて貴婦人を凌いで居る有樣に一驚を禁じえませんでした。

斯く臺灣島の地から南へ一亘り旅行して見ましたが、實にこの地は風光明媚で、至る處に水があります。一度目を屋外に轉ずれば、四周皆耕作地であると云ふ有樣で、南に行くに從ひ、景色は漸次平垣になりますが、嘉義などには、九千尺以上の山々が連綿として屹立し、其麓には清澄な溪流ありて其美しい景色は言語に絕してをります。私が參りましたのは十二月で內地ならば、身を切るばかりの寒さで、火鉢を抱いて居る時節でありますが、臺灣は最も氣候溫和な時で、單衣若しくはネル衣にて一番心地よきほどの溫かさでありました。それがため十二月とは云へ、至る處に美しい花が咲き亂れ、又多くの果物成長し、殊にバナナは却つて飽きを催すほどに澤山ありました。又猩々木の一丈餘にも成長し人家を凌いで、此處彼處に眞紅の葉を見せて居るのは、ことに日本內地と其目先きを異にして珍らしく思ひました。

新開地や殖民地は何處も、其通弊を持つて居りますが、該地も其類にもれず、內地に於てよりも夫の收入の多き所から、從つて生活裕かなるがため、自らを修養せんと力むるならば、時間があるにも拘らず、却つてこれがためには心配せず、衣服裝飾の事にのみ心を用ゆるやうになり、華美に流れ易いのであります。恰かも英國人がインドに於ける弊害と同じく、刺激が少しもありません。然かも新らしき土地に、新らしき生活をするのでありますから、自然

無責任になる傾向があります。男子なれば飲酒に耽り、婦人は、日本婦人の缺點として、讀書の趣味に乏しい處から、唯呆然として、或は雜談に時間を空費してをると思ふ節々がありました。信者の者のでも教會が近くになかつたり、又最初は信者である事を互に發表しないので、信者各自が淋しく感じはしないかと思ひました。臺北などの大都會ならば別でありますが、他の小都會では、宗教上孤獨の感じがあるやうに思ひます　そして聖書を讀む事や祈禱の習慣は漸次これを失ふ男女が多いのであります。

臺灣で最も勢力を有するものは、官吏で、精糖會社の重役等これについでをります。この精糖會社員の中に多くの信者がありますが、公に其信仰を發表して居るものは少數であります。又集會でも稀に開くのみでありますから、信仰の發達と云ふ事がありません。且この地には種々雜多の日本人が入り込んで居りますので、却て土人の排斥を受けるやうな者も多く、國威はなかなか揚つて居るとは申されません。

此度私が彼地に渡つて最も痛切に感じた事は、婦人の働き人のない事であります。勿論交通不便な土地でありますから、一人で行くと云ふ事は不可能でありますが、青年會等の團體が起り、二三人の獻身的の婦人が、唯行つて見やうとか、其の結果をあげるためにして見やうなどゝ云ふ、一時的の薄弱な意志でなく、眞に自分の使命であり、神より召されたものであると云ふ、覺悟、確信をもつて渡り、働いたならば、土人間に好感化を及ぼすのみならず、先づ內地人を先に導き、彼れらを教化する上に、有力なる結果を奏し得るだらうと思ひました。

●●●●

〇婦人週報　本誌が「明治之女子」時代に編輯を擔任されし小橋三四子女史が主幹として昨年秋より新に經營せらるゝ週刊婦人雜誌で新しい時代の婦人に向つて健實な思想を與へ導き進歩せる日本社會に多大の貢獻をなさんとの希望によつて生れたものである、號を重ぬるに從て漸々外觀內容共に充實し來つたことを喜ぶ。吾人は自重奮闘を祈つて止まない。

最初のクリスマスの木

ヘンリー、バンダイク

河口正子　譯

ウインフレドの一行が曲線を書いて居る列を見廻した時其群集の皮膚の色が黒色でないばかりか、映輝し、光り輝いて、莊重な態度を執れる白人であつたのに氣がつきました。大きい新月形をなした此群集の一端に群がつてをる婦人等の衣服も、嚴かに整列して居る兵士等の輝ける甲冑も、圓形の中心を占めて居る老人連の毛の外套も、火のそば近く立つて居る子供等のピカ〳〵と光る銀の飾をほどこし小羊の眞白な毛でこしらへた衣裳も、且は彼等一行を見た人達の顏色迄も、恐懼のために眞白であつた。而して凡てのものゝ上にちら〳〵と躍つて居る焔の光が恰かも、雪の上にかすかに消え殘つて居る血の痕の樣にちらついて。淡い光を投げて居た、此微光に照されて居ない、唯一人の者は老僧ハンラッドであつた。長い妖怪でも着さうな法衣をきて、其髮の毛と髭は長く垂れ、死人のやうに蒼白な顏色の彼れは火に背をむけて立つて居たが、今來た見馴れない人達に逢はんと靜かに前に歩を進めた。

「貴殿達は一體誰ですか？　何處から來て、此處に何の御用がおありなのですか？」

「私は獨乙人の兄弟で、貴殿の親類のものです」とウインフレードは答へた。

「はる〳〵海を越えて英國から、貴殿方に御挨拶をし又私が仕へて居る大能の父よりの言傳てを持つて來たものです。

「さうですか？　ようこそお出でになつた、御歡迎致します。然し今暫時御靜かに願ひます、今私共が致して居る事は猶豫する事の出來ないものです、そして貴殿が何か神々からの表號か證物を持つて來ておいでになればよし、さもなくばあの月が中天を横ぎる前にして仕舞はなければならないのです。貴殿は奇蹟がお出來ですか？」

此質問の矢は恰かも思ひがけない希望の光が老僧の錯亂して居る心に閃めいたかの如くに、鋭敏に放なたれた。然しウインフレードの聲は低く沈み、失望の影が、答へた時に其顔に懸つて居た。

『否え、奇蹟の御話を聞いた事は度々ありますが、自分が行つた事はありません。全能の父は私に普通の人に與へられたやうな力を除いては他に何の力をも與へ給はなかつたのです。』

『それでは靜肅に立つて居なさい、普通の人。』ハンラッドは侮蔑するやうに云ひ放つた。

『そして神々が私共に何をなさしめんとて召し給ふたか御覧なさい。今晩は神々も人々をも愛せられた美しい日の神ボールダーの死の夜である、今宵は暗黒と冬の勢力の盛んな時で、又犧牲と恐怖の夜である。此樫の木がさしあげてある雷と戰爭の神ターが今宵ボールダーの死を非常に悲しみ、且彼れに對する禮拜を捨てた人民に對し怒つて居られるのです、彼の祭壇に供物のそなへられたのは、もうずつと以前の事で、この聖樹の根が血にて培はれたのも餘程長い前の事である。それがため葉は時ならぬに凋み枝は將に枯れんとして居る。それでスラフやウエンド族の蠻民と戰つても敗れ、收穫は絶へ、狼群は羊の柵を荒し弓は其力を失ひ、投槍の柄は折れ、野猪は獵師を殺害した、又それがため疫病は吾等の住家を襲い、村中に死するものが生きて居るものよりも多くなつた。諸君、これらは事實ではないか？ 答へなさい』

同意の皺枯れ聲が、此あつまりから聞こえた、やがて遠雷の樣に轟き渡つて居る瀑布の上に生ひ立つて居る松の梢を吹き渡る甲走つた風の樣に、男女の聲が混つて、聖歌が粗暴な音律に或は高く、或は低く歌はれた。

『オーターよ雷神よ
力强くして憐愍なき。
許せ吾等を撃たずして
御身の槌を投げ給ふな
われらに怒らず

御身の民を悩まし給ふな
汝等が財寳より沒收りたまへ
價高き贖償を
吾等捧げん銀にても
寳玉にても、繪にても
はた美しき衣をも
凡て吾等の所有物を
吾等贈らん、評價の出來ぬ物にても。
吾等殺ろさん羊をも
吾等犧牲ん駿馬をも
新鮮き血をもて御身を浸すべし、
雷神の木よ、
生命の大水は御身を洗ふべし
力强き神秘の木よ。
强大き者も愛憐深かゝれ
な吾等を撃ち給ひぞ、
赦せ、われらを赦せ、
赦せ、ター、ターの神。

二つの大きな叫びをもつて歌は終つた、續いて火のパチ〳〵云ふ音さへ、明瞭にきゝとれるまでに、静粛になつた。老僧は暫く沈默つて立つて居た、其の間彼れが尨毛の眉毛が恰かも焔を消して居る灰の様に其目の上に垂れかゝつて居たが、やがて其顔を擧げて語り出した。

「こんなものは何れもあの神を悦ばせる事は出來ない。これより尙貴いものは汝等の罪を潔むる供物である、之こそ血の聖樹に新らしい生命を送る、眞紅の露である。ターの神は汝等の最も愛する、又最も尊しとする供物を要求し給ふのだ。」

ハンラッドは熾んに燃えて居る火と、高く上つて行く蛇の様な火の子に夢中になつて、見とれて居た子供等の方へ近づいた。子供等は老僧の言葉では少しも注意せず、又彼れが近づいた事にも氣が付かなかつた、そして樫の木の間に上つて行く火の子のどれが一番高く上るかしらと皆熱心に凝視めて居た。小供等の先頭で、この奇麗な遊戲に一番熱心であつたのは、快活な褐色の目をして、口元に微笑を湛へて居る瀟洒な然し敏活な太陽の光線とも云ふやうな男の子であつた。老僧は其の手を彼れの肩に優し

く置いた、そして子供は振り返つて彼れの顏を眺めた。

「此處に」と老人が云つた其聲は、恰かも淀泊して居る船が、搖れて大綱を引張る時の樣に震動して居た。

「此處に選ばれたものが居る、此の子は酋長の總領息子で、人民の愛し子である、ハーキン、バンハードよ、英雄達が神々樣と一所に住んで居るバルハラに、ターの神樣に御使ひに行つて下さらないか？」

子供は速かに且明晰に答へた。

「ハイ、御坊樣、若し父樣が行けと御命じになるのならば參ります、遠方で御座いますか？ 急いで走つて行つて來ませうか？ 狼のために僕の弓と矢を持つて行かなければなりませんか？」

有髭の兵士等の間に混つて立つて居た、其子供の父、チーフテレ、ガンドハーは、强いて胸の動悸を靜めるやうに、固唾を呑んで柄がメリ／＼云つたほどに、其槍に重く倚りかゝつて居た。彼れの妻のアイマーは婦人のみの列から、身を前にかゞめて、片方の手で前髮から自分の金髮を引きぬいた、そして片方は其頸の周圍にかけて居た、銀鎖の頸飾をひきづりまはして、其粗末な鎖りが、彼の女の頸をひつかき赤い血潮が、彼の女には氣が付かないが、其胸に流れたほどであつた。群集は嵐が起る前の森林の物音の樣に皆同じく嘆息をもらした、然しなほそれでもハンラッドをのぞいては誰も發言するものはなかつた。

「さうです、王子よ、道が遠いから弓と槍をもつてお行でなさい、眞實にあなたは强い獵師だ。然し、暫くの間はあなたの目を結えて、暗やみと行かなければならない、恐ろしいですか？」

「少しも恐怖くはありません、暗やみだつて、大熊だつて、狐狂だつて恐怖いものは一つもありません僕はガンハーの息子ですもの、そして人民の防禦者ですもの。」

そこで老僧は、其の子を自分の羊の毛の衣の中に

入れて、火の正面の大きな石の傍へ伴れて行つた。彼れは其子供の小さい銀の尖頭をつけた弓と、キラ〱光つた鋼鐵の槍を與へた、それから白布で子供の目を結へ、東の方を向いて石の傍に膝づくやうに云ひ付けた。弓形をした見物人は、丁度弓の綱が引張られる時、弓の兩端が引き寄せらるゝやうに、無意識に、なかへ〱と入り込んで來た。ウインフレードは靜かに動いて、老僧の後に立つて居た。老人は蹲んで地面から、石の黑い槌―ターの神の神聖な槌―を取り上げた。彼れの弱つて居る腕の全力をあつめて、槌を高く空中に振り上げた。槌は一瞬間餘り、小供の奇麗な頭の上に中ぶらりになつて居たがやがて下に落ちはじめた。

鋭い叫び聲が婦人の立つて居る處から耳を劈ざいて聞えた。

『私を、私をとつて下さい、バンハードぢやありません。』

子供の方に母親がどびよつたのは、鷹が餌物に向つて飛び下るよりも速かであつた。然し、救助者の年は尚以上に速かであつた。ウインフリードの重い杖は、將に下されんとして居る。槌の柄に强くあたつた、同時に其槌は老人の握つて居た手からわきにそれて祭壇の端にあたつて、この黑い石は眞二つに割れた。畏懼と歡喜の聲は弓形から起つた。樫の木の枝は震ひ、焔は一際高く上つた、叫び聲が消えた時、人々はアイマー夫人が、自分の腕にひしと子供を抱きしめて居るのを見た、又彼れ等の上の祭壇の石の上に其顏は天使の如く氣高く輝いて居るウインクリードを見た。（十完）

花の籠

少女 電話口の聲

私は今日或る若い女の方に、お目に懸りたいと思ひます。何故て仰有るのですか、少女諸君。私は時々用達しに、下町の或る店へ參るのですが、この女の方はいつも電話で返事を致します。その聲の優しくて可愛いこと！　ですから私はその方が知り度いので御座います。私、その方はきつと善い方だと思ひます。ネヽ、いつでも、その聲は變りませんとも。電話で御座いますからね、勿論、誰に話して居るのか彼女は知らないのです。人によつて聲を裝つたり、時によつて調子を變へる人なら、電話の聲や調子がさうムラなしにはいきませんものね。ですから私はこの方を知りたいので御座います。かう云ふ聲はほんとうに持ち甲斐があります、自分にもまた他人にも隨分。かういふ女を使ふ店の主人だつてさうで御座います。繁昌しますからね。番頭の無愛想な聲や、失禮な態度がお客を店に寄せつけないことはあるもので御座いますからね。

かういふ聲はお金を出しても買ひたいものでございますが、市場で買ふわけにはまゐりません。この寶物を得る道は唯一つ、それは、あなたの心の庭に生へなければなりません。優しい聲の秘訣は人格で人格はありのまゝのあなたなので御座います。聲はあなたの思想や感情や、眞實あなたと云ふものをあらはすもので御座います。あなたの聲はあなたで御座います。あなたの聲に望むところは、まづあなたの生活にお望みなさい。（MM譯）

我々のクリスマス

宮城女學校青年會員

「明朝の出陣に、遲れを取らば己が恥、又、クラスの恥、よく〱心して、武具を整へ召されい」との御大將よりの下知、「畏つて候」とばかりに、本校最後のクリスマスを迎ふる五年の面々取り出でたるものは、甲冑ならで、ねづみ色になりたる裾げ毛布、ねづみの穴道は三つ四つ、見れども品がよくて、お祖父樣が若い時分用ひられ

たものとか、愛孫が寄宿に入るとき、惜み作る遊物とおでk子の御得意のもの、又、袖付の下から綿をはみ出して、裾の一端に小火の形跡あるyk子の大福袍等を始めとして、兜に代るスカーフ、襟巻など取り揃へ、用意をさ／＼怠りなし、食堂のストーブを、四脚のベンチで圍むと間もなく、消燈の鈴が威勢よく鳴つた、女中共はにこ／＼して、生徒連を、うらめしげな顔で見つめる、早く皆寢て仕舞へばよいと思ふのに、下級の人達は、なか／＼ストーブを離れない、じれつたいから、こちらから「グートナイト」を言ふてやつた、「あらあなた方ばかりいゝのね、羨しいわ」しぶ／＼四年のTさん、が言ふ、「いゝのよ／＼、來年は私達の番ですから、ねいSさん、皆さん、たんとお騷ぎ遊ばせ、グツトナイト」Sさんと二人で出て行つた、續いて、皆去つた、「あゝ、やつと、邪魔者共が去つた、さあこれからが我らが天下」と胸たて下した、大本營たる食堂に、殘つたのは、一騎當千の勇者十一騎、盛にストーブを燃して、車座になる。

「十時が過ぎたから、あまり騷いぢや、いけないよ、先生が」と誰かゞいふ、「なあに、最後のクリスマスですもの、無禮講はかまやしませんよ、誰に遠慮がいるものか」とM子は小さい身體に似合はない大きい口をきく「あゝ、お腹が空いた、もうお蕎麥が食べたいわ」と食ひしん坊なS子がいふ、「本當にやね、みんなのびたべつちや」とC孃はテーブルの上に流視する、「さうごすれ、さあ皆さん、冷えないうちに頂きませう」といふ御大將は東京辯だけれども、なか／＼食ひ慾の强い人「さぞ甘しからう」とつる／＼すゝり込む、お蕎麥はすつかりおのび遊ばしたので、さすがの大食官の連中も一椀で箸を置く、日曜學校のクリスマス菓子をF子の袂に見付けたUさんは逃さない、そつと引き出して袋を破つて、粟おこしを一かぢり「あゝ御馳走樣」F子がそれを發見するよりも先に、皆の掌に、菓子が一塊づゝ載つた「何だね、人のもの無斷でとつて……」F子が佛頂面する頃には、その影も形もない、するとNさんの袖の下から蜜柑が轉げ出した、そして見つかつて一同の前に、幾つか並べられ、又南京豆や菓子なども献上するものも出來てきた、ykさんが一寸お立ちになつた、どの方面に御斥候かと思へば軈て、片手には大丼、片手には土瓶を提げ得々然と、傲壯なお鼻搦めかし乍ら、「お手柄でござい」「見れば澤庵漬が壘々と山をなす、「ykさんは何て下品なものばかりお好きなんでせう」さういつて上品がるF子が第一番に輪切澤庵に嚙り付いて、ぼり／＼さうしては、がぶ／＼とお湯を飲んで居らるゝ樣は、これで女學生だの、お孃さんなどゝは聞いて呆れる、胃の腑も御主姫の暴入には、目を白黑やつてるだらう、時計が十二を打つ頃には、よく／＼お腹の皮が釣り張つたとみえて、皆の眼の皮がたるんで來た、こく／＼ボートを漕ぎ始める人もある、最もチヤンピオンはTさんらしい、白川なら、たしか一分三四哩は漕ぎ拔かれるかもしれぬ、よく／＼の敗北者は、テーブルや四脚合せたベンチの上に、床を敷いてもぐり込む、Sさんは「みな寢てしまつちや、つまらない」とぐづり出した、寢ずに遊べとは、慘酷な命令だ、誰がきくものか、夙つくに、ぐう／＼鼻かぐら、S子はぷり／＼怒つて、二階へとゆく、「明朝寢過しても、しらないことよ、起しませんよ」と鶴の一聲、されど、拗つ子は聞かばこそ、ツン／＼行つてしまつた、大抵寢てしまつて四方がしーんとなる、ストーブさへも、プー／＼盛んに鼾かく、k子とM子とy子の六つの眼と電燈の玉とが光つてるのみ、Tさんなどは鼾聲雷の如し、k子「みん

な寝て仕舞つたのね、私達ばかりたゞ起きてゐてもつまらないわ」遂にY子の發議で寝美人の玉顔に、紀念の染筆しようと、相談が纏つて、Y子自らそつと、二階まで、硯を取りに行く、足音がいつになく、重々しく、みしり〳〵響く、舎監室の前を通ると一チン。」びつくりした、何だ馬鹿々々しい、時計が一時をうつたのだ、暗い部屋から手さぐりで持て來る、M子はよつぽど笑ひ上戸だ、何を見ても、何か音がしても、直ぐに笑ふ、Y子が恭しく硯箱を持て來たらすぐゲラ〳〵笑ふ、墨をすると笑ひ、K子が筆の下をもつとて又笑ふ、惡戯が可笑くて笑ふのか、笑ふために、惡戯するのか、殆んど見別がつかぬ、K子が抜き足差し足でテーブルの側に寄り、Tさんの寝顔を窺ふ、M子ふつと吹き出す、「叱ッ」Y子目をむき出す、第一の事業も成功した、Tさんのには見事な鼻眼鏡が掛けられ、カイゼルひげがピンと嘯く、第二にF子に美顔術、一筆下すと「アクソショウあゝ冷たい、雨が降つて來たのかしら」ときよろ〳〵見廻す「あゝさうでせう、寒からうと思ふて、ふとんを直して上げたのよ」と澄し込んで、K子蒲團に手を掛ける、M子は又腹を抱へて笑ふ、抱へ切れないと見えて、遂に轉げ笑ふ、何んと笑ふ事に趣味をもつた人だらう、趣味の爲に倒れるまで努めるとは驚くべき忠實家、ストーブの上で墨汁を暖めて又々冒險に着手する、然し今度は思はしい好果も見えぬ、何れも破眼鏡や、片目、片ひげ、細い寝ぼけ眼に驚いて、手を引く。中止して三人は冷えたお蕎麥を温めて食べる、寝坊共になど殘すのは贅澤だからとて、平げた椀數十數個、不意にバタンと大響を立てゝ、YK子がテーブルの上から轉げ落ちた、そして、寝ぼけ眼を大きく開いて、きよろ〳〵見廻す、M子ならぬ、K子も、Y子も抱腹絶倒、やゝ半時、何を思ふたか物も言はず、又床の中にもぐり込んだ、多分、夢の中だらう、今度はM子執筆にて冒險に向ふ、案の定見ん事失敗、F子に一寸眉毛入れるや否や、大きい目をぱちッと開いて「何すんのぢや？」M子直ぐに趣味の爲めに「はあはゝゝゝ」と笑ふ、餘りに聲が高いので、一同目を醒ます、互に隣の人の顔を見て、くす〳〵笑ひ出した、自分の顔の裝飾を知らないで、お互に人を笑ふお間抜さん達と可笑しさをじつと忍んで、後の祟りが恐ろしや、Y子は不知顔してYK子の蒲團の中にもぐり込んで寝た振をする、M子が餘り笑ふので、一同に怪まれ責立てられて、趣味の人は遂に兜を脱ぐ、Y子は本當に眠つてしまつた、やがて、耳側て、むづ〳〵音がしたやうな覺えもある、遂に、毛布を剝がされて、ゆり起された時は、夢はまだ淺い、三時半、いよ〳〵モーニングコロイヤ出陣の段となつた。（未完）

う　た

辻村靖子

●正月八日の夕郊外に出でゝ

冬知らぬ　里はこのさと　秋草の
のこる野河に　梅の花さけり

●鶫

つくみ鳴く　櫟林の夕あらし

さむけくなりぬ　野火もえそめぬ。

しもしろき　苅田の面のめもはるゝ
　松ところ〴〵　青きのべ哉。

●兒を亡ひたる人を悼みて

ひえ氷る、ちごの膚へにはだそへて
　このよ一夜を守りあかすらむ。

大空の星みる如く　戀ひ〳〵し
　ちゝに逢ひみて逝きにし子らはも。

（この子は生れ出でゝ父を見ず、父が外國よりかへりて十日ばかりありて、病みて死にたるなり）

●冬の曉の月

死の神の翼　掩はるゝこゝちして
　さむる夜床に　月さえわたる。

●舟

蒼海原　一つなりけるましら帆の
　かすぞそひ行く　いなさ吹くらし

●偶感

一世には爲しあへざらむ　志し
　わが子繼ぎ行く　我とはに生きむ

聖書研究

以賽亞書

牧師　横田貞治

第五回　第二以賽亞言（四十章注解）

附　第二以賽亞の神觀

以賽亞書四十章―五十五章を第二以賽亞と稱して五百四十九年B、C、より、五百三十八年B、C、の間に於て書かれしものである事は、既に述べた。預言者（八世記B、C、）イザヤと全く其時代を異にして居る、彼のアッシリヤが天下の霸者であつた時代は過ぎて次はネブカドネザルを以て初まるバビロンの天下となり、此時代にエルサレムは二度せめられて落城した事、（第一囚虜、五百九十七年、第二囚虜五百八十六年）其れよりエルサレムの住民が捕虜となつてバビロンに引かれ行きし事は既に述べた、榮枯

盛衰は世の常にして、アッスリヤを覆へせしバビロンも今や榮華の夢さめて、遂に波斯の王クロスに依りて征復さる。第二イザヤは乃ち此のクロス未だバビロンを攻めざれど、漸く其頭角を顯はし來りし時にバビロンに於て捕れの民に此の言を傳へた詩人である。

此書を大體二分す。

(一)四十章―四十八章。クロスを通じてイスラエルの民の復歸を豫言せり。(ユダの民の事)

(二)四十九章―五十五章。エホバの僕の使命とシオンの光榮。

此詩人の豫言を知らん爲め先づ四十章を研究する事とする。

四十章(第一)一節―十一節、序文、喜の音信。(第二)十二節―三十一節、神。

一、此處に『慰めよ、慰めよ』と冒頭に於て繰返して居るこれが實に此詩人の文體であると共に、此語が彼の豫言の出發點であり又目的である、全篇を通じて彼の慰の語が鳴響いて居る。實に彼は長く捕虜にあつて其意氣沮喪せる人民を慰め勵ます所に其大なる使命を感じたのである。

汝等とは豫言者等であらう。吾が民、こゝに注意を要する。イザヤ書六章に、豫言者イザヤが神の幻象を見し時に『エホバいひたまはく、往てこの民に斯の如く告げよ……』のこの民と云ふ語と對照して其異なるの甚しきよ。今や神が民に親密なる態度をとり、わが民と云ひ給ふた。第一イザヤにとい叱責さるゝ父の威あるに對し、第二イザヤにては慈母に抱かれたるの有樣である。二節に至り尙ほ驚くべき神の慰めの語を聞く。

二、懇ろに……、如何に同情に滿ちたる語よ。

○服從……長く囚虜に苦しみしは之れ服役なり、其期は既に終つた。○其咎すでにゆるされたり。赦す事の出來ない罪があるにも拘らず神が免したもうたと云ふのでなく、もう咎が終つた。咎に對する負債の仕拂をなせる故、赦さるべき權利があると云ふ意

である。○只に其のみならず二倍の仕拂をなせりと云ふ、之れ實に驚くべき神の同情の聲ではないか？嚴格なる第一イザヤ預言の出發に對照して之に春野を別け行く心地するに非ずや。

斯く第一の聲は慰の聲である。次に三節―五節に於て第二の聲がきこゆる、福音書には『野に呼べる人の聲』とある、之は野と云ふ文字を誤りて前に結び付けしによる。○呼ばわるものとは誰か、之は天使が他の天使に呼ばわつて居る所である。○砂漠に神の大路―バビロンよりパレスチナに歸る順路は北に大廻りするのであるが、今や直ちに砂漠を横ぎりエホバに導かれて歸るを得。第一の慰めの言葉は、第二に於て事實となり顯れ來りつゝあるを語る。されど砂漠に大路は餘りに疑はしき事實にあらずや、故に第三の聲は人の榮は野の花の如きも神の語は永遠に變らず云ふ事を確めしなり。六節―八節これなり。○よばはれ……預言せよと云ふ之に對して答へて云ふ者は預言者なり。七、エホバの息、アラビヤから來る熱き東風は草木を凋落せしむると同じく、エホバの手によりアッシリヤ、バビロンの如き大帝國が今日は盛んに美しく咲きほこれ共、明日は見る影もなきものとなる。

○神の言―特に此處には五節のエホバの榮光あらはれ、人皆共に之を見んとのエホバの目的の宣言を云ひしなるべし。

第四の聲は今や砂漠を過ぎて、イスラエルの恢復がユダに事實として顯れ來りしを云ふ。

九節の併行體を見よ、ヘブライの特徵なり。『シオンに……』『エルサレムに……』山に登りてエホバが其民を導き來れるを見て之を告げ知らせよの命なり十節十一節は預言者の語る處にて、如何にエホバは力強く且親切に其民を指導するか？

斯く序文に四つの聲がある、悉く其民を慰めんとするにあるを知る、之によつて第二イザヤの全豫言の精神を知り得るなり、而して其慰めの來る所以や如何、之を其神に歸さねばならぬ。（第二）は即ち神

について語る。

此處に先、十二節―十四節に亘りてヱホバの力と智慧の比ぶべからざる事を語り、○ヱホバの靈はヱホバの心を云ふので聖靈の義でない。次に十五節―十七節に於て他神に比して人間の力の弱き事、取るに足らざるものなるを云ふ。○一滴の水は桶に何ぞや、一の塵は如何で權衡を上下するに足らん、レバノンの杏樹は大きく且多しといへど、ヱホバへの柴に足らざるなり。ヱホバの前に萬民は無きに均し、此處に第二イザヤは神の無限大を謳歌せるなるが、次に十八節―廿節に亘りて此のヱホバを偶像に比するの愚を嘲けつて居る。特にイスラエルよりも萬國民に言つて居るのである。十九節偶像は、身を眞鍮にて造り、其上に金をかぶせ動かぬ様或は盜まれぬ様鎖を以てつなぎ置くのである、斯くの如きものを以て天地の支配者たる神に比するの愚や及び難し。二十節の寶物は甚た不明瞭なり、字義より云へば供物の意なれば、偶像の供物と云ふは少しく可怪、よつて初めの『かゝる寶物を備へざる貧しき者は、原文に訂正を加へて『像を刻む者』はとなす、果してこれ然りや否や知らず、されどかくなせば明瞭なり木像を造るものは、先づ木を選び、大工を選定し、而して矢張り之も動かざる様、釘づけになすなり。『動かず』と云ふ事が恰も偶像の本性ではないかと思はしむ。如何に活ける神と異なれるの甚しき。二十一節―二十六節に亘りて、自然界及人類の歴史に顯はれたる大能の御手を語る。先づヱホバの高く天にいますを語り、地上の君は如何に勢盛なりとて忽ち衰ふるなり。二十五節、聖者はヱホバを云ふ、二十六節、萬象とは星と云ふ、恰も士卒を野に引出して點檢するが如く、ヱホバは夜な〳〵星軍を天空に引きさして點檢したもうが、而かも一つも欠席者なし。昔を各々名にて知ると云ふの觀念はバビロンの感化である。之を豫言者イザヤの『ウジヤ王の死にし年に高くあかれる御座にヱホバの座し給ふを見しと比較して餘程相似たる所もなるが、第二イザヤの

舞臺はもつと廣くなつて居る觀がある、而して其宣言する所や只ユダ一國民に限られて居らぬ、萬國民に對して居るを見る。異國に彷徨せし豫言者にして此世界大の立脚地より豫言するを得。而して此の世界大の神に對して、第一イザヤの感ぜし神と人との分離、懸隔と云ふ念に比し、第二イザヤに於てはこの神があるから民が慰められるとした。二十七節―三十一節は慰を與ふる神なる事をイスラエルに告げ知らす所である。

二十七節、わが途―わが哀れなる境遇。○わが法乃ちわが權利、二十八節、地の限の創造者乃ち全世界の創造者を云ふ、彼自ら疲れざる新らしきものと同じく、イスラエル人に親らしき疲れざる力を與へる神である。三十節、年小きもの疲れてうみ、壯んなるものも衰へおとろふ……、之れ人生の事實である、我等は肉體に於ても精神に於てもいつも同じ樣に續けて行けると思ふは間違ひである。三十一節、然はあれどヱホバに俟ち望むものには世間普通と異なる所がある。○新なる力を得ん、新らしき力を交換する古き力に元氣をつけるのではない。古い着物につぎをあてるのではない。新らしき衣をあたへて着更へさせるのである、ヱホバを俟ち望む者は全く古きは取り去られ、新らしくなる、異つた力を得るのである。我等の信仰も日に新にせられるのが信仰上の實驗であるべき也。只昨日の信仰に少しつき足しを今日すると云ふのではない、新らたに信ずるのである。約翰傳二章十一節にイエスの弟子等がカナの奇蹟を見て『弟子かれを信ず』と今更の如くに書いてある、實は既に一章に於て彼等は充分にイエスのメシヤである事を信じて居つたのであるが、信仰は日々新たにせらるゝのである。昨日信じたからと云つて其が今日役に立つのではない、(之より全然役に立たないのではない)。富士に登つて登り行く度に後ろを見て新らしき景色を感じて『あゝ美しい』と云ふのである。ヱホバを俟望むものは此の再び新にせらるゝ力を得るのである。○翼をはりて翔ける。

○次に走る。○次に歩む、之が我等の信仰生活の順序を語れるかの如し、先づ祈るこれが出發點である。只もがき苦しみ、あせつて急がゞしく飛び廻るものに信仰生活の力は感じられない。俟ち望むのである。次に心を新にせらるゝなり、内なる力を感ずるのである。靈の働きを感ずるのである。次に翼をはりて上る、大なる幻象を見、高き理想に渇仰るゝを得。只自分の事のみ吸々たるもの到底神の御旨を知る事は出來ない。次に走るのである、只に理想のみでなく、之に走りつゞける何物かがなければならない、突進する處のもの、躊躇せざる所のものがなければならぬ、弟子達がキリストに『我に從へ』と云はれし時舟を捨て網を捨てゝ從つた、只逡巡焦慮を之事とすれば、折角見し幻象も折角抱きし理想も遂に迷夢となり終らん、最後に歩むのである。單調の如く見ゆる日常生活は我等の歩みである、されど此度に我等の日常生活が完ふせられねばならぬ、斯くの如き順序は我等の實際生活にも見出すのであるが其出發點なる俟ち望む、祈る、之れ忙がしき現代に於て最も大切である。

以上第二イザヤ書の目的は其民を慰むるあるが單に慰むる爲に慰の言葉を語りしにあらず、慰むべき大なる根據を彼自身捕へしが故である。然して其根據とは何ぞ、之れ實に彼の神に對する觀念である。彼の宗教的觀念は此れから出づ、神とは何ぞ？

(一)神は彼れにとりて世界大の唯一無限の神なり。彼の他に神なし、彼れは世界を作り、全能にして、全智なり、彼は宇宙を與へ、人類の歴史を支配す、彼は始めなり終りなり、他に神ありとすれば皆彼等は偶像にすぎず。エホバのみ神なり、今や世界を征服しつゝあるクロスと云へ共又彼れの攝理の内に動きつゝあるなり、此獨一無比なりてふ觀念は第一イザヤにもあつた事は既に見た處である、されど彼のイザヤ六章とを比較して見る時には少しく其印象を異にする、第一イザヤにてこの廣高大無邊の事は含まれて居るが、其高調せし所は其犯すべからざる點

である。然れど第二イザヤに來ると殊更にこの點を引き出して且論じ、且つ意を強めて、神の廣大無邊なる事を歌ふ、實に彼は大なる神の觀念に醉へる人である。之れ實に彼の慰を得し理由の一である。

(二)されど此神又特別の意味に於てイスラエルの神である。之實にヱホバの祭に基けるなり、イスラエル元より罪のためにバビロンに行き！といへど、ヱホバは彼等を忘れ給はず、「婦その乳兒を忘れて、己が腹の子をあわれまざることあらんや、縱ひ彼等忘るゝことありとも我は汝を忘るゝ事なし。」(四十九〇十五)神は喜んで其民を赦し給ふ。「われこそ我自の故によりて汝の咎をうけし汝の罪を心にとどめざるなれ。」(四十三〇廿五)されば必ずユダの國を恢復し、此民を復歸せしむべきを此豫言者は信じ得たのである。これかれが慰をあたへえし第二の理由なり。」

(三)然してこの神は義である。四十二章二十一節、此義と云ふ意味が少しく第一イザヤと場合を異にして居る、たとへば四十五章十三節に「われ義をもて彼のクロスを起せり」とあり、四十一章十節に「…誠にわが義しき右手汝を支へん」四十二章六節「われヱホバ公義を以て汝を召たり」等は神の義を語つて居るのであるが、只普通思はるゝ正義と云ふ意味丈ではない、其他四十五章、十九節「……我はヤコブの裔に汝等が我をたづぬるは徒然なりといはず、我ヱホバは義しき事を語り、……」四十五章二十三節、「我に己をさして誓ひたり、この言は義しき口より出でたれば反ることなし」此等によつて見れば義しきとは言行一致である必ず成し遂げ給ふ、眞實なる神である、乃ち其約束に忠實である。其目的に眞實である。必ず其の主張を貫徹せでは止まない、乃ち世界は神の大なる目的を以て動いて居る事を示して居る。而して其目的は救ひである。依つて四十一章十節などは殆ど救ひと云ふ意味に取つてもよい位である。四十五章二十一節には「われは義を行ひ救を施す」と云ふ樣に云つて居る、義の神は乃ち其救

の目的を完成し給ふ神である。よつて第二イザヤに失望がない。啻にイスラエルが救はるゝのみならずエホバの救の目的は世界大である。四十五章十七節に「イスラエルはエホバに救はれて永遠の救を得ん」と云ひ又更に進んで二十二節に「北の極なる諸々の人よ汝等我を仰ぎのぞめ、然らば救はれん」と。要するに全世界はエホバの神の救の大目的を果さんの舞臺である。今やクロス勢を加へ來る。之れ實に神の御心の存ずる所、彼をしてイスラエルを救はしめんとする神の計書である、此意味に於てクロスはメシヤである。四十五章一節に「われエホバ、我京膏者クロスの右の手をとりて、もろ／＼の國を其前に降らしめ……云々」第一イザヤは異敎の王を神の審判の道具と云へり、其れは未だしもであるが、第二イザヤは此異邦の王をメシヤであると稱す、而して決してかれに敵意なし、其の天に大なる廣き水平線上に立てるかと見る、斯くしてイスラエルは救はるゝのであるが、之れ只イスラエル丈を愛するの愛ではない、此民の救はるゝによりて更に光は全世界に及び、エホバの救の大目的が萬國に遂行せられんが爲である。これ第二イザヤの雅量である。神イスラエルの爲のイスラエルを選びしにあらず、神の目的の爲にイスラエルを選びしなり、然らば何故にイスラエル捕れの苦しみをしたか、之れ實に次に論ぜんとする大切なる思想である。兎に角全世界に神の大なる救の目的を見出だせし點に於て第二イザヤは實に偉大なるものと云はざるを得ない。果してクロスはバビロンを陥れた、而して幾分第二イザヤの豫言に動かされたる所もあつたであらう、イスラエルが歸國するを許した。歴史上此イスラエルが歸國せし事に依つて、直ちに全世界に神の目的が完成したとは云へない、且其後しば／＼政治上困難の狀態に陷つたが、救はユダヤ人より出づといはれしイエスの言は今日事實となりて顯はれて居るではないか！第二イザヤの豫言は益々明らかに完成されつゝあり、全世界は實に神の救の目的に於て動かされて居るこれ永遠の眞理である。

彙報

東京基督教女子青年會

昨秋神田新會館が落成し十月中旬開館の披露を致してより引きつゞき殆ど年末迄は內部の設備及其他會務の整理新事業の開始等の爲め多大の時間を費せしが昨今は漸く萬事緒に就き落付く樣になりたるを以て、今年は傳道方面に努力して一層深く强く御國のために致したき希望を以て此の年を迎へたり。今昨年九月以降年末迄の本會事業の狀況を略記して報告すれば左の如し。

(イ)クリスマス祝會 ●●●●●●● 九ヶ所に開催せり。即ち神田會館內日曜學校(來會者百名)、田町及び三番町兩日曜學校聯合(來會者八十名)、第一、二寄宿舍日曜學校聯合(來會者九十名)、好友園及好友園日曜學校の外、三井慈善病院內和泉會の祝會は、外村義郞先生の講話ありて後親睦會に移り、面白き餘興などあり又本會所屬三寄宿舍聯合祝會は會館集會場にて開き、出席者六十餘名、松宮彌平氏のクリスマス感話の後、互に親睦し共同遊戲あり時間の移るを知らざりし。又本會の祝會は會員及其友人の方々を招き、クリスマス禮拜にて川添萬壽得氏の講話ありて、茶菓に移り、ヴァイオリン獨奏、獨唱、合唱、ピアノ、蓄音器等音樂の餘興もあり互に親睦して盛なる祝會を催せり。

(ロ)英語敎授 ●●● 晝の組十七名、夜の組八名で双方とも組敎授なり、熟練を積まれし、イーストレーキ姉妹が個人々々に注意を拂ひ、時には補習の時間をも作り、親切丁寧に敎授さるゝを一同深く感謝して居れり。夜の組には務先きより直ぐ辨當持參にて會館に來らるゝ方々の爲にも其便を圖ることゝなり居れり。

(ハ)西洋料理敎授 ●●●●●● 設備の完全なる割烹室にてミスカフマンが日本語を上手にあやつりつゝ、熱心に盡力せらる。每火曜日午後二時より八名程の白前掛姿の奧樣方が、セッセ〳〵と働き居らるゝは實

に健氣なり。只今迄は野菜、クリーム、スープ類キャンデー類、玉子料理及びカスタード等の稽古なりしも今後は食後のもの、カンテン料理、肴、肉等の料理を漸次教授せらるゝ都合なり。

（ニ）**生花教授**　現今は西洋婦人が一名稽古を始められしが其の御手際の巧みなるには日本人も皆驚く程なり。

（ホ）**體操の組**　日本人四名、外國婦人十四名にて現今の處は月木の午後と火曜日の夜と二組を設けあり。活潑なる體操、上品なるダンス、面白き遊戯等、中々趣味あり、日本の婦女子の方々がもつと體育に心を注がれ、立派なる體格の婦人を作られる樣に努めて戴きたく痛切に感ず、場所は廣く設備は完全せり。殊に教師ミス、マクロイは米國オハヨー州オブリン大學にて特に體育學を研學せられし方なれば教授上遺憾なし。自動ピアノを用ひて、足並を揃へて動き出すなど見て居るだけ心地よき感じをなす。一度是非々々參觀されんことを希望す。

（ヘ）**聖書の組**　學校別又は他の便宜に依つて組を設け一週一度開會せり。「キリストの人格」、「キリスト傳」、「ヨハネ傳」又は「ポーロの人格」等それ〴〵の題の下に研究しつゝあり。組數は十五、出席者は全體にて百名餘りあり。此の聖書研究に付いては委員組織として、一層皆樣の要求を滿たす樣になさんと準備中なり。

（ト）**第一寄宿舍**　牛込區納戸町に在り、舍監門倉藤子、これが監督の任に當り、舍生平均卅二三名内外。第二寄宿舍は小石川區安藤坂にありて舍監大西絹子、監督され、舍生平均卅名内外なり。兩寄宿舍とも毎日曜日午後七時より集會を開けり。外村義郎先生、木岡甲子男氏、大井一郎氏、野口牧師、松宮彌平氏、海老名夫人、石川靜子姉、藤井孝子姉、植村環姉等の講話を願へり。尚毎日曜日夜幹事一名づゝ寄宿舍に赴き舍生との親交を圖れり。

(チ)第三寄宿舍　神田新會舘の一部に設け十六名を定員とす。外出の便利のよき割合に極めて靜なること神田の眞中に居るとは思はれぬ程なり。現在在宿者は十名にて食卓上の會話など頗る興味ありて面白し、舍監有田玉子姉よく其任を盡さる。尚數名入舍の餘裕あれば希望者は申込ありたし規則書などは申込次第御送呈すべし。

(リ)旅行者の友　上野東京兩驛に係員一名づゝを派出し其任に從事しつゝあり。去年九月より、救濟保護を與へたる者、鄕里に送返したる者、湯島天神町一ノ廿四の宿泊所に數日間滯在せしめて職をあたへたる等凡そ六十餘名に上れり。而して其年齡は四才より七十二才の老人までに渡れり。

(ヌ)好友園　本會附屬幼稚園なる好友園の大槪あい子姉主任にて永野睦姉これを助けられ四十五名の兒童を保育せり。每金曜日午後父兄母姉の會を開きて教育宗教談等をなせり。日曜日午後には日曜學校を開き六十名程の子供の出席者あり。每週火土の午後は園庭を公開して近隣の子供の遊戲場として、一人の監督者を置き自由に入場遊戲せしむ平均卅名内外の兒童の集つて樂しく遊ぶを例とす傳通院前にて下車し、小石川金富町五十七番地は即ち本園の所在なれば幸に參觀されん事を希望す

(ル)神田會舘　を廣く社會に紹介して、大小に係はらず婦人會合の便に供せんと努めり。去る一日十五日午後には婦人傳道會社主催の婦人傳道祈禱會あり、又一月廿六、廿七、廿八の三日間基督教婦人修養會を開かれ廿九日には婦人大會あり。漸次かゝる集會に我が會舘を使用さるゝに至るは喜びに堪へず。

(ヲ)小音樂會　二月十二日(土)午后二時半より本會舘にて小音樂會を開き會の維持費補助に宛てんとて計劃中なり。會費は五十錢。

○好友園の近況　一月とは思はれぬ此頃の暖さ、冬の用意の不充分な當園は實に幸福です。園兒は每日四十名以上參りますが、何れも寒さうな樣子

もなく、午前中は恩物、手藝、マーチ等を樂しんで致して居ります。午後は一時間も遊ぶ時がありますので、飛行機たとて兩手を左右にのばしてグル〱まわるやら、大將さんになつたかと思ふと馬になりさては電車の車掌となつて大塚ですおゝりの方はありませんか、などと騒いでます。女兒はまた女らしく、まゝごと遊び、庭掃除、カナリヤの掃除、あやとり等を致してます。先日でした『先生〱飛行機が墜落したした』一大聲で呼びますので、それは大變とそばに居た女兒が看護婦にたのんで、繃帶をしたり飛行機の方は手入をしてギウー〱をねじを卷いてやりましたらまた大喜で、方々飛んで歩るいて居ました。淸さんと他の五女は日あたりのよい處に蓆を三枚ばかり敷いて、蜜柑箱にて臺所を作り、まゝごと遊びを初めました。先生私はまゝごとに入れて下さらないの」と今にも泣出しさうな顏をして參りました春ちやんの手をとつて、遊んでくれないといふ其家を訪ねました。「御めん下さいこちらのお母さんとお父さんにお目にかゝりたう御座います」「入らつしやいまし。」「これは私の娘ですがよく働くいゝ子供ですよう女中にでもよいから使つて下さいまし」と頼みますと先生の娘といふので、心から喜んでつかつてくれることになりました。「春や今からお客樣が入らつしやるからおつかひに行つて來てくれ。私は御飯をたくからお父さんも子供も皆んな庭をはいて下さい。」と主婦のさくちやんが申しますと何れもあやとりの紐を箒に草箒を手にして庭はきが初まりました、庭はきも此頃はなれて參りましたので、それは上手にし終りました。するとお母さんが「まあお前達はよく働きましたね、御褒美を上げませう春や燒芋でも買つてお出で。」言ひつかつた春ちやんは小石の燒芋を十ばかり持つて參りました、皆てにこ〱してさも美味さうに食べ終りましたから、今度はどうするのかと見て居りますと、先程客をよぶと申したのは私共のことであつたのでせう「どうぞ入らして下さいまし。」招かれて永野さんと二人して參りました、泥笹の葉、草花等でこしらつたおすしを貝殼に盛つて竹の箸をつけて出してくれました。二人でさんざ御馳走になつて一家族が仲よく各々が自分のすることを忠實にしたこと庭やお座敷のきれいなこと等を褒めて歸りました。

こんな風にして毎日樂しく遊んで居ります。日曜學校の方は淺井姉が熱心に御助け下たいますので、大そう面白く樂しく致して居ります。其他只今の處ミスファンニンクのオルガン、ミスエマソンの英語、土曜日の仕事會讃美歌の稽古、小學校の生徒の爲めに午後二時から園庭を開放して遊ばせて居ることと等で他は休んで居ります二月になればもつといろ〱致すつもりで居ります。（大槻主任報）

本誌定價	
一部（郵共） 金七錢	一ヶ年分 金七拾錢
海外 金拾壹錢	金壹圓廿錢
廣告料	
一頁 金六圓	半頁 金三圓五十錢
四分ノ一 金貳圓	一行 金貳拾錢

大正四年一月廿八日印刷納本
大正五年二月一日發行

發行所　東京市神田區北神保町十四番地
日本基督教女子青年會

編輯兼發行人　東京市神田區北神保町十四番地　河井道子
印刷人　東京市芝區櫻田和泉町七番地　前川吉治郎
印刷所　東京市芝區櫻田和泉町七番地　三成舍

NATIONAL COMMITTEE

Headquarters: 14 Kitajimbocho, Kanda, Tokyo.

Telephones: Residence, Bancho 4563; Office, Honkyoku 586.

Cable and telegraph address, Emissarius, Tokyo.

Furikae chokin, Tokyo 23723.

Mrs. Hana Ibuka, Chairman
Dr. Kei Okami, Vice-chairman
Miss Tami Mitani, Secretary
Dr. Tomo Inouye, Treasurer
Miss Michi Kwai, Active Member World's Committee
Miss Ume Tsuda
Miss A. B. West
Miss Uta Suzuki
Miss Kita Hasegawa
Miss Sarah Ellis
Miss Chiyo Yamada
Mrs. K. W. Clement
Miss Ai Hoshino
Miss Jun Kido
Miss Matsu Okonogi

NON-RESIDENT MEMBERS

Madame Asa Hirooka, Osaka.
Mrs. Koito Saiki, Kyoto
Miss M. F. Denton, Kyoto
Miss Michi Matsuda, Kyoto
Miss Yoshi Kajiro, Okayama
Miss K. Tristram, Osaka
Miss Susan Searle, Kobe

SECRETARIES

Miss Michi Kawai, National
Miss Margaret Matthew, National
Miss Ruth Ragan, National Office
Miss Mary Page, General, Tokyo
Miss Taka Kato, General, Tokyo
Miss Emma Kaufman, Associate, Tokyo
Miss Mary Baker, General, Yokohama

CALL FOR THE OBSERVANCE OF THE UNIVERSAL DAY OF PRAYER FOR STUDENTS

EVERY year, since its organization two decades ago, the World's Student Christian Federation has called upon its members and upon Christians generally to unite in intercession on behalf of the students of all lands. At this solemn moment in the life of the world, in setting apart February 27th, the last Sunday of the month, as the Universal Day of Prayer for Students, the General Committee of this Movement, which unites the Christian students of all countries and races, does so with a more profound conviction than ever of the absolute necessity and the boundless possibilities of united prayer.

The Christian Student Movement whether considered locally, nationally or internationally, is built around the central and supreme Person, Jesus Christ, the Living and Almighty Lord. It bears His Name. It acknowledges allegiance to Him. It exists to bring to bear His principles and spirit upon the life of the universities, colleges and schools and to make these institutions centres of propaganda for His programme. It recognizes Him as the Source of its life and energy.

Never has Christ seemed so unique and so necessary as He does to-day. When have so many stood in need of His guidance to discover the path of duty and of faith in the midst of sore perplexity and questioning, of His sustaining power in the midst of sorrow and loneliness, of His assured presence in the valley of the shadow of death, of His vision and hope to discern and hasten the coming of the better day! Christ has ever manifested Himself in the pathway of those who have called upon Him in faith and with pure heart and unselfish spirit. Therefore, let Christian students and professors in every land, together with all who have truly at heart the accomplishment of God's will in and through the students of the nations, unite in the faithful observance of the coming Universal Day of Prayer for Students, that there may be marked manifestations of superhuman wisdom, superhuman love and superhuman power—such manifestations as will fully meet the unparalleled needs of the present hour.

On behalf of the General Committee of the
World's Student Christian Federation,
KARL FRIES, Chairman.
JOHN R. MOTT, General Secretary.

January 1st, 1916.

日本基督教女子青年會

目的

日本全國の諸學校及び市邑に於ける青年女子の間に基督教女子青年會を設立し其一致聯合を圖り以て萬國基督教女子青年會と連絡する事

左の事項を奬勵す

青年女子の間に基督教的智識を普及し之を導き基督耶穌を救主として信奉せしむる事

青年女子の靈的生命を涵養し献身的行爲を勵し其智識社交身體の發達を圖る事

青年女子をして萬國に基督の王國を擴張せしむる事

會友

基督教女子青年會未設の地或は學校に於て本會の主旨を賛助し事業を奬勵せんと欲する者を以て本會の會友とす

會友の種類及會費は左の如し

通常　年　金壹圓　維持　年　金貳圓以上

會友には本會機關雜誌「女子青年界」を送附す

會友たらんと欲する者は本會本部に申出べし

事業一班

巡廻訪問　本會幹事を派遣して支部を奬勵し或は地方を巡廻視察し本會の發展を圖る

出張講演　廣く一般女子の需に應じて講師を派遣す

機關雜誌　月刊「女子青年界」を發行し靈性智識の資に供す

紹介部　一般女子のため諸般の紹介をなす

寄宿舍　東京市内に青年女子の爲監督寄宿舍を設く將來他の都市にも設立せん事を期す

宿泊所　外國婦人の要求に應じ併て日本の眞相を紹介す

夏季修養會　毎年夏季山水明媚の勝地に開會し專ら女子の修養を圖る

旅行者の友　地方より上京する婦女子の保護を要する者の救濟保護に任ず

社會部　所屬幼稚園有り主として下級社會の幼兒を收容し且其家庭の傳道啓導につとむ

中央委員

委員長　井深花子
副委員長　岡見恵子
記錄書記　三谷民子
會計　井上友子
萬國基督教女子青年會同盟委員　河井道子

委員
津田梅子（東京）
エ、ピ、ウエスト（東京）
鈴木歌子（東京）
小此木松子（東京）
長谷川喜多子（東京）
星野愛子（東京）
サラ、エリス（東京）
イ、クレメント（東京）
山田千代子（横濱）
藤田貞子（横濱）
城戸順子（横濱）
廣岡淺子（大阪）
ケー、トリストラム（大阪）
エム、エフ、デントン（京都）
佐伯小糸（京都）
松田道子（京都）
エス、ソール（神戸）
上代淑子（岡山）

役員

總幹事（本部）　河井道子
同（同）　エム、エル、マシウ
書記（同）　アール、レーガン
總幹事（東京）　エム、ペーチ
同（同）　加藤高子
特志幹事（同）　イー、アル、カウフマン
幹事（横濱）　エム、ペーカー
事務員（本部）　河口正子
同　湯川みの
事務員（東京）　大谷久子
事務員（横濱）　伊藤菊子
旅行者の友係　林ふさ　松崎滿喜
幼稚園主任保姆　大槻愛子
幼稚園助手　永野睦子
第一寄宿舍監　門倉ふじ
第二寄宿舍監　大西絹子
第三寄宿舍監　有川玉子
宿泊所取締　ミス、ダルトン

東京市神田區北神保町十四番地　日本基督教女子青年會本部

女子青年界第拾參卷第貳號

大正五年一月廿八日印刷納本大正五年二月一日發行　明治卅七年五月七日第三種郵便物認可